

# 学校等施設の適正規模・適正配置計画

【（案） 令和 2 年 1 月】

# 目 次

1. 現計画の概要	P1
-----------	----

---

- ① 学校施設の適正規模・適正配置計画（後期：平成 28 年度～平成 31 年度）
- ② 学校施設の適正規模・適正配置スケジュール

2. 現計画の進捗状況	P2
-------------	----

---

3. 市内学校等の児童生徒等の状況	P2
-------------------	----

---

- ① 出生数及び児童生徒数の推移
- ② 公立小中学校の児童生徒数の推移
- ③ 校別児童生徒数の推移
- ④ 地域別（中学校区）人口と児童生徒数の推移

4. 学校の適正規模・適正配置 関係法令等	P7
-----------------------	----

---

5. 関連閣議決定等	P8
------------	----

---

6. 市内小中学校の児童生徒数の将来推計 令和 2 年度以降の方向性	P8
------------------------------------	----

---

7. 幼稚園 園児数の推移 令和 2 年度以降の方向性	P32
-----------------------------	-----

---

8. 学校等施設の適正規模・適正配置計画（令和 2 年度～令和 11 年度）	
--	--

---

## 1. 現計画概要

### ① 学校施設の適正規模・適正配置計画（後期：平成 28 年度～平成 31 年度）

平成 22 年策定した、10 年計画の後期 5 か年について、平成 22 年度～平成 26 年度を計画期間とする前期計画を改訂した。

### ② 学校施設の適正規模・適正配置スケジュール

区分		平成 22 年策定時		平成 27 年策定時
学校名		前期	後期	
幼稚園	泉幼稚園	現状 ⇒	現状 ⇒	現状 ⇒
	伊豆山幼稚園	現状 ⇒	現状 ⇒	現状 ⇒
	緑ガ丘幼稚園	第一小へ移転	—	小嵐保育園との認定こども園として検討・開設。 (開設目標：H30.4)
	上多賀幼稚園	現状 ⇒	多賀幼に統合	南熱海地区の特別支援教育の充実を図る上で、施設を含めた跡地利用について地域住民と検討していく。
	多賀幼稚園			
網代幼稚園	⇒新たな教育環境の創設⇒		和田木保育園との連携を図りながら、就学前児童の環境整備を検討する。	
小学校	泉小中学校（併設）	現状 ⇒		湯河原地区への児童生徒の流出を防ぐ策を検討し、児童生徒数の確保を図る。
	伊豆山小学校	現状 ⇒		統合の必要性については、小規模校の特性を十分に勘案しつつ、平成 27 年 1 月に発出された統合に関する新たな手引きとなる文科省通知も踏まえ、子どもたちにとって、より良好な教育環境を熟考し、必要な措置を講じていく。
	桃山小学校	現状 ⇒	第一小に統合	
	第一小学校	現状 ⇒		
	第二小学校	現状 ⇒		
	多賀小学校	現状 ⇒		
	網代小学校	⇒新たな教育環境の創設⇒		
初島小中学校（併設）	現状 ⇒			
中学校	熱海中学校	H26.4 熱海中に統合		
	小嵐中学校			
	多賀中学校	現状 ⇒		

## 2. 現計画の進捗状況

平成 26 年 4 月：熱海中学校、小嵐中学校 統合

平成 30 年 4 月：多賀幼稚園、上多賀幼稚園 統合

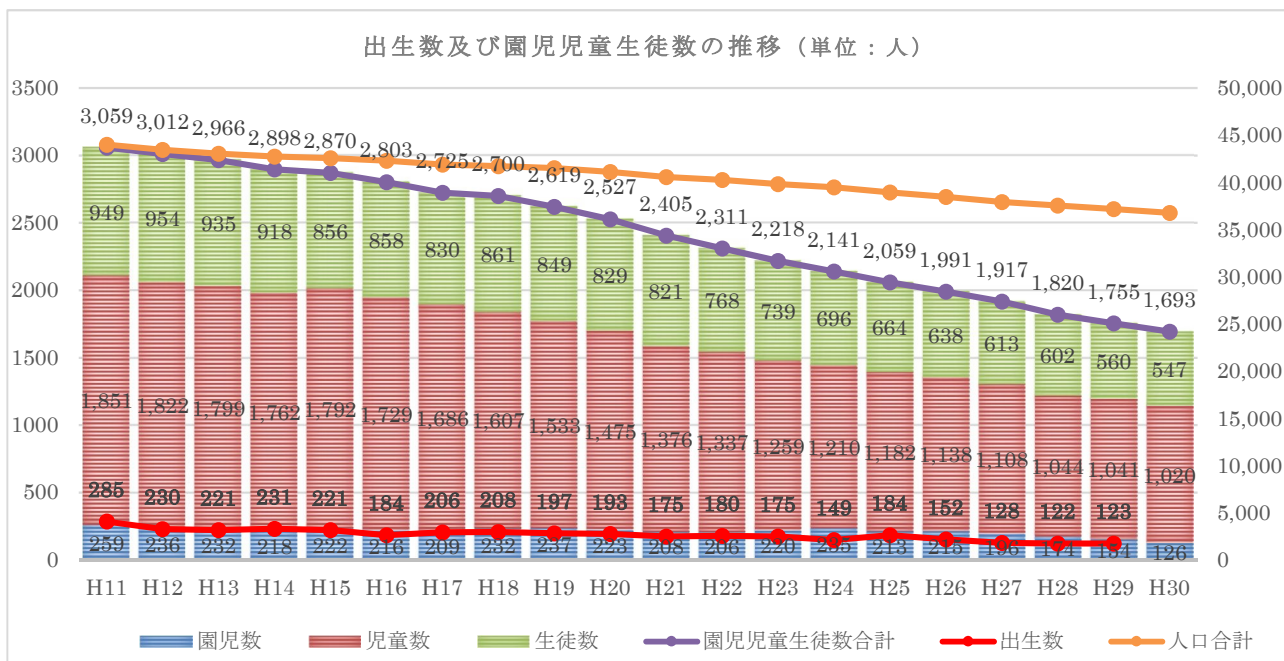
※ 網代幼稚園：平成 29 年 4 月 休園

※ 緑ガ丘幼稚園、小嵐保育園：平成 32 年 4 月認定こども園 移行

## 3. 市内学校等の児童生徒数等の状況

### ① 出生数及び児童生徒数の推移

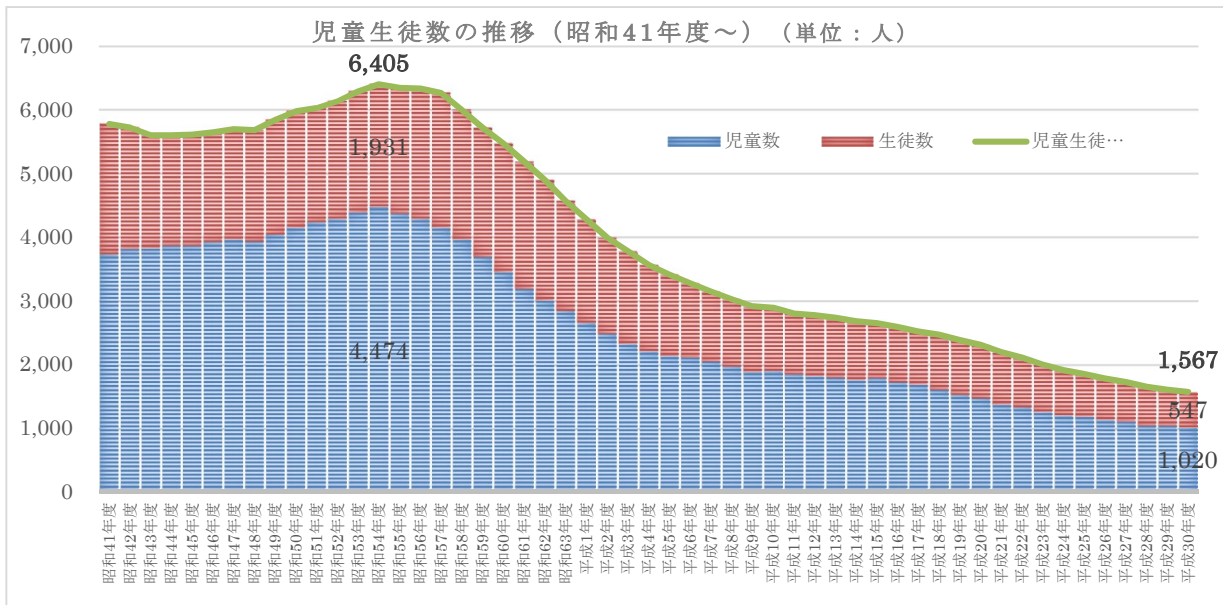
児童生徒数と相関関係にある出生数の推移を見ると、平成 11 年度には 285 人の出生であったが、平成 29 年度には 123 人にまで減少している。特に平成 27 年度以降 120 人台にまで急激に減少している。また、出生数の減少は、児童生徒数はもとより、共働きなど保護者の就労状況とも関係し、幼稚園児の減少に歯止めがかからない状況となっている。



出所：学校基本調査

### ② 公立小中学校の児童、生徒数の推移

公立小中学校における児童、生徒数の推移は、主幹産業である観光業の著しい成長にともなう、昭和 40 年の人口ピーク及び昭和 46 年から昭和 49 年における第 2 次ベビーブームを反映して、昭和 54 年に児童生徒総数 6,405 人をピークに、一貫して減少し続けている。平成 30 年 5 月 1 日現在の児童生徒数は、1,567 人となっており、ピーク時と比較して、4,838 人減少している。



### ③ 校別児童生徒数の推移

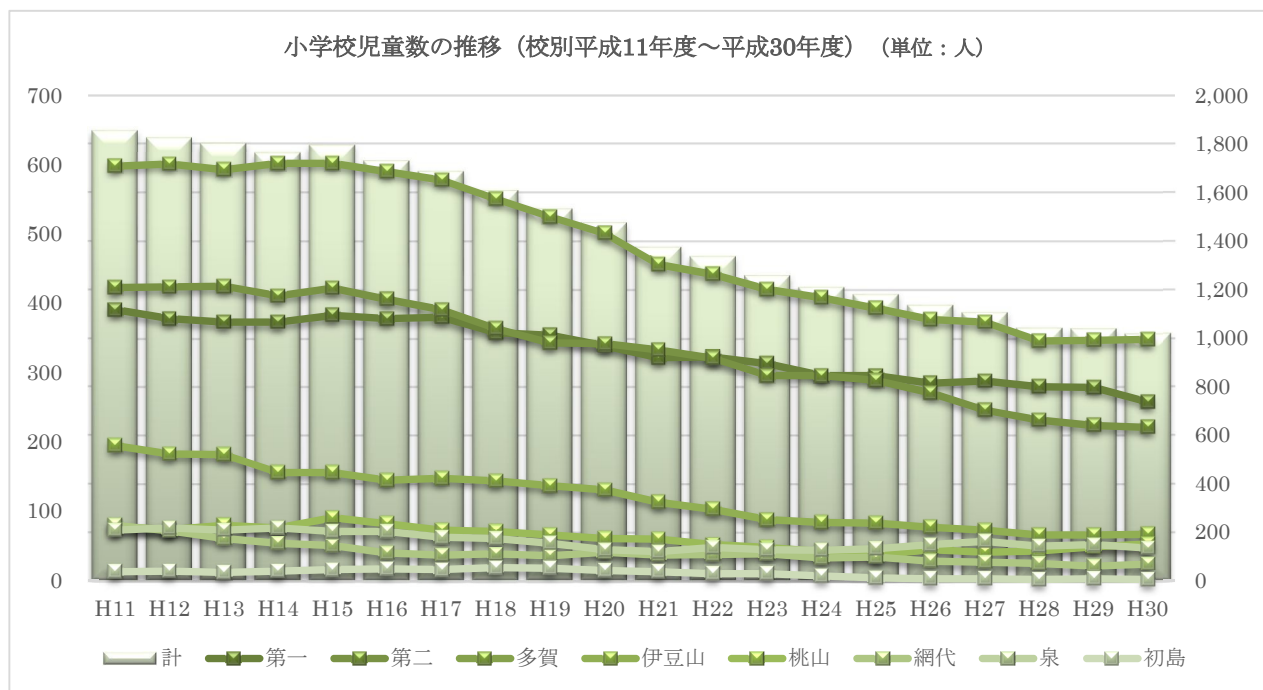
過去 20 年間の公立小中学校、校別児童生徒数の推移、公立小学校では、平成 11 年度 1,851 人が平成 30 年度 1,020 人、44.9%の減少となっている。校別における減少幅で比較すると、初島小学校が 11 人、84.6%の減少となっており、次いで、網代小学校が 56 人、70.0%の減少となっている。その他、伊豆山小学校 128 人、65.6%の減、第二小学校 202 人、47.8%の減、多賀小学校 250 人、41.8%の減、泉小学校 26 人、35.6%の減、第一小学校 133 人、34.0%の減、桃山小学校 25 人、32.1%の減となっている。また、公立中学校では、平成 11 年度 949 人が平成 30 年度 547 人、42.4%の減少となっている。各校の統廃合の状況を踏まえた推移で見ると、熱海中学校が 248 人、44.3%の減、多賀中学校が 148 人、41.6%の減、初島中学校が 1 人、42.4%の減、泉中学校が 5 人、16.7%の減となっている。

小学校児童数の推移（校別平成 11 年度～平成 30 年度）（単位：人）

年度	第一	第二	多賀	伊豆山	桃山	網代	泉	初島	計
H11	391	423	598	195	78	80	73	13	1,851
H12	378	424	601	183	74	72	76	14	1,822
H13	373	425	593	182	80	61	73	12	1,799
H14	373	411	602	156	76	54	76	14	1,762
H15	383	422	602	156	91	51	71	16	1,792
H16	378	406	590	145	82	40	71	17	1,729

年度	第一	第二	多賀	伊豆山	桃山	網代	泉	初島	計
H17	380	391	578	148	73	37	63	16	1,686
H18	358	364	551	144	71	39	61	19	1,607
H19	354	343	525	137	66	36	54	18	1,533
H20	339	342	501	131	61	41	45	15	1,475
H21	322	333	456	113	60	37	42	13	1,376
H22	323	321	442	103	52	38	48	10	1,337
H23	313	296	420	88	48	39	45	10	1,259
H24	296	296	408	84	42	33	44	7	1,210
H25	296	289	393	83	37	34	46	4	1,182
H26	285	271	377	77	45	28	52	3	1,138
H27	288	246	373	73	41	27	57	3	1,108
H28	280	232	346	66	43	25	50	2	1,044
H29	279	224	347	66	49	21	52	3	1,041
H30	258	221	348	67	53	24	47	2	1,020
H11-H30	▲133	▲202	▲250	▲128	▲25	▲56	▲26	▲11	▲831
▲%	34.0%	47.8%	41.8%	65.6%	32.1%	70.0%	35.6%	84.6%	44.9%

出所：学校基本調査



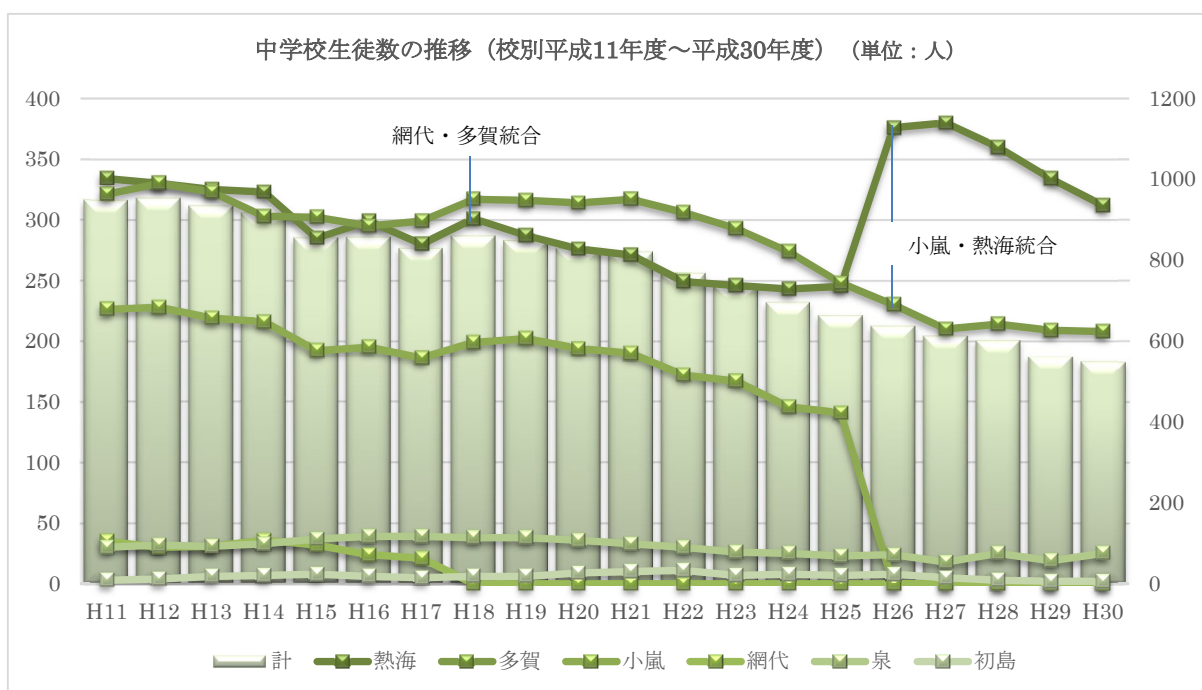
中学校生徒数の推移（校別平成11年度～平成30年度）

（単位：人）

年度	熱海	多賀	小嵐	網代	泉	初島	計
H11	334	321	226	35	30	3	949
H12	330	330	228	30	32	4	954

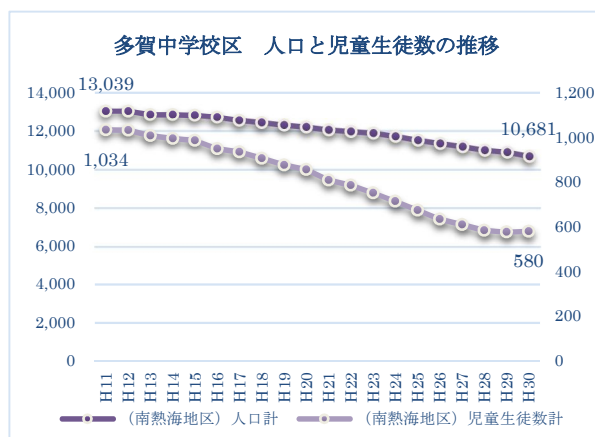
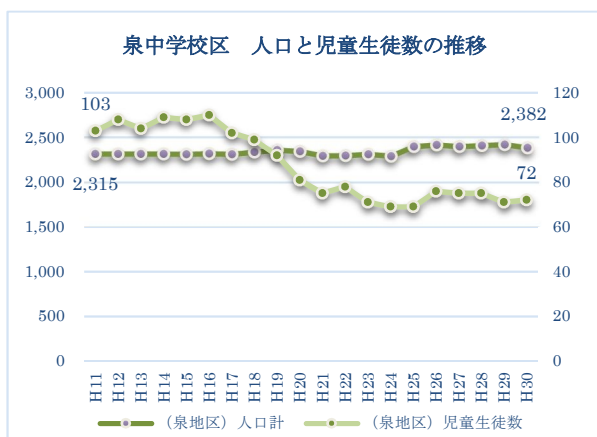
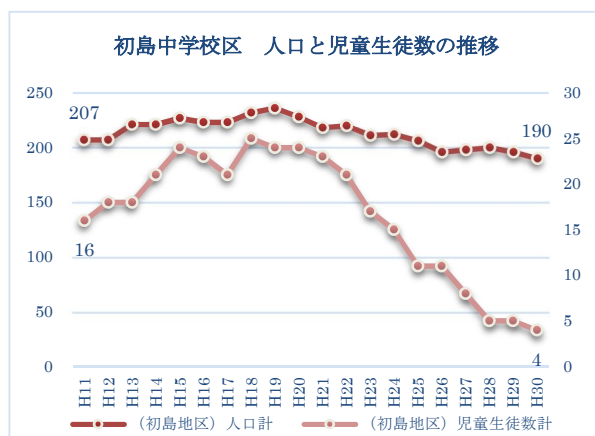
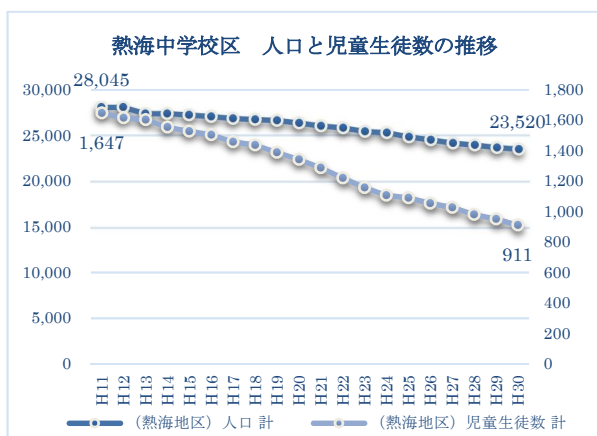
年度	熱海	多賀	小嵐	網代	泉	初島	計
H13	325	323	219	31	31	6	935
H14	323	303	216	36	33	7	918
H15	285	302	192	32	37	8	856
H16	299	295	195	24	39	6	858
H17	280	299	186	21	39	5	830
H18	301	317	199	0	38	6	861
H19	287	316	202	0	38	6	849
H20	276	314	194	0	36	9	829
H21	271	317	190	0	33	10	821
H22	249	306	172	0	30	11	768
H23	246	293	167	0	26	7	739
H24	243	274	146	0	25	8	696
H25	245	248	141	0	23	7	664
H26	376	230	0	0	24	8	638
H27	380	210	0	0	18	5	613
H28	360	214	0	0	25	3	602
H29	334	209	0	0	19	2	560
H30	312	208	0	0	25	2	547
H11-H30	▲248	▲148			▲5	▲1	▲402
▲%	44.3%	41.6%			16.7%	33.3%	42.4%

出所：学校基本調査



#### ④ 地域別（中学校区）人口と児童生徒数の推移

市内中学校区における地域別人口の推移と児童生徒数の状況は、それぞれの中学校区における人口及び児童生徒数は、一貫して減少している。熱海中学校区においては、平成11年人口が28,045人、平成30年人口が23,520人と4,525人、16.1%減少しているが、児童生徒数に関しては、平成11年1,647人に対し、平成30年は911人であり736人、44.7%と大幅に減少している。また、多賀中学校区では、平成11年人口が13,039人、平成30年人口が10,681人、2,358人、18.1%減少しており、児童生徒数は、平成11年が1,034人に対し、平成30年が580人であり、454人、43.9%と半数以上が減少している状況となっている。



出所：市民生活課、学校基本調査



#### 4. 学校の適正規模・適正配置 関係法令

##### ① 学校教育法

第 38 条 市町村は、その区域内にある学齢児童を就学させるに必要な小学校を設置しなければならない。

※ 中学校については、第 49 条において準用

##### ② 学校教育法施行規則

第 41 条 小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

※ 中学校については、第 79 条において準用

##### ③ 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律

第 3 条 国は、政令で定める限度において、次の各号に掲げる経費について、その一部を負担する。この場合において、その負担割合は、それぞれ当該各号に掲げる割合によるものとする。

四 公立の小学校及び中学校を適正な規模にするため統合しようとすることに伴って必要となり、又は統合したことに伴って必要となった校舎又は屋内運動場の新築又は増築に要する経費 二分の一

##### ④ 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

第 4 条 法第三条第一項第四号の適正な規模の条件は、次に掲げるものとする。

- 一 学級数が、小学校及び中学校にあつてはおおむね 12 学級から 18 学級まで、義務教育学校にあつてはおおむね 18 学級から 27 学級までであること。
- 二 通学距離が、小学校にあつてはおおむね 4 キロメートル以内、中学校及び義務教育学校にあつてはおおむね 6 キロメートル以内であること。
- 2 5 学級以下の学級数の小学校若しくは中学校又は 8 学級以下の学級数の義務教育学校と前項第一号に規定する学級数の学校とを統合する場合においては、同号中「18 学級まで」とあるのは「24 学級まで」と、「27 学級」とあるのは「36 学級」とする。
- 3 統合後の学校の学級数又は通学距離が第一項第一号又は第二号に掲げる条件に適合しない場合においても、文部科学大臣が教育効果、交通の便その他の事情を考慮して適当と認めるときは、当該学級数又は通学距離は、同項第一号

又は第二号に掲げる条件に適合するものとみなす。

## 5. 関連閣議決定等

### ① 経済財政運営と改革の基本方針 2014（H26.6.24 閣議決定）

学校規模の適正化に向けて、距離等に基づく学校統廃合の指針について、地域の実情を踏まえつつ見直しを進める。

### ② 教育再生実行会議 第5次提言（H26.7.4 閣議報告）

学校が地域社会の核として存在感を発揮しつつ、教育効果を高めていく観点から、国は、学校規模の適正化に向けて指針を示すとともに、地域の実情を適切に踏まえた学校統廃合に対し、教職員配置や施設整備などの財政的な支援において十分な配慮を行う。国及び地方公共団体は、学校統廃合によって生じた財源の活用等によって教育環境の充実に努める。

### ③ まち・ひと・しごと創生総合戦略（H26.12.27 閣議決定）

集団の中で切磋琢磨しつつ学習し、社会性を高めるという学校の特質に照らし、学校は一定の児童・生徒の規模を確保することが望ましいが、今後少子化の更なる進展により、学校の小規模化に伴う教育上のデメリットの顕在化や、学校がなくなることによる地域コミュニティの衰退が懸念されており、各市町村の実情に応じた活力ある学校づくりを推進する必要がある。そのため、地域コミュニティの核としての学校の役割を重視しつつ、活力ある学校づくりを実現できるよう、学校統合を検討する場合や、小規模校の存続を選択する場合、更には休校した学校を児童生徒の増加に伴い再開する場合などに対応し、活力ある学校づくりを目指した市町村の主体的な検討や具体的な取組をきめ細やかに支援する。

## 6. 市内小中学校の児童生徒数の将来推計

本推計値については、毎年度の出生数をもとにスライド推計したものである。

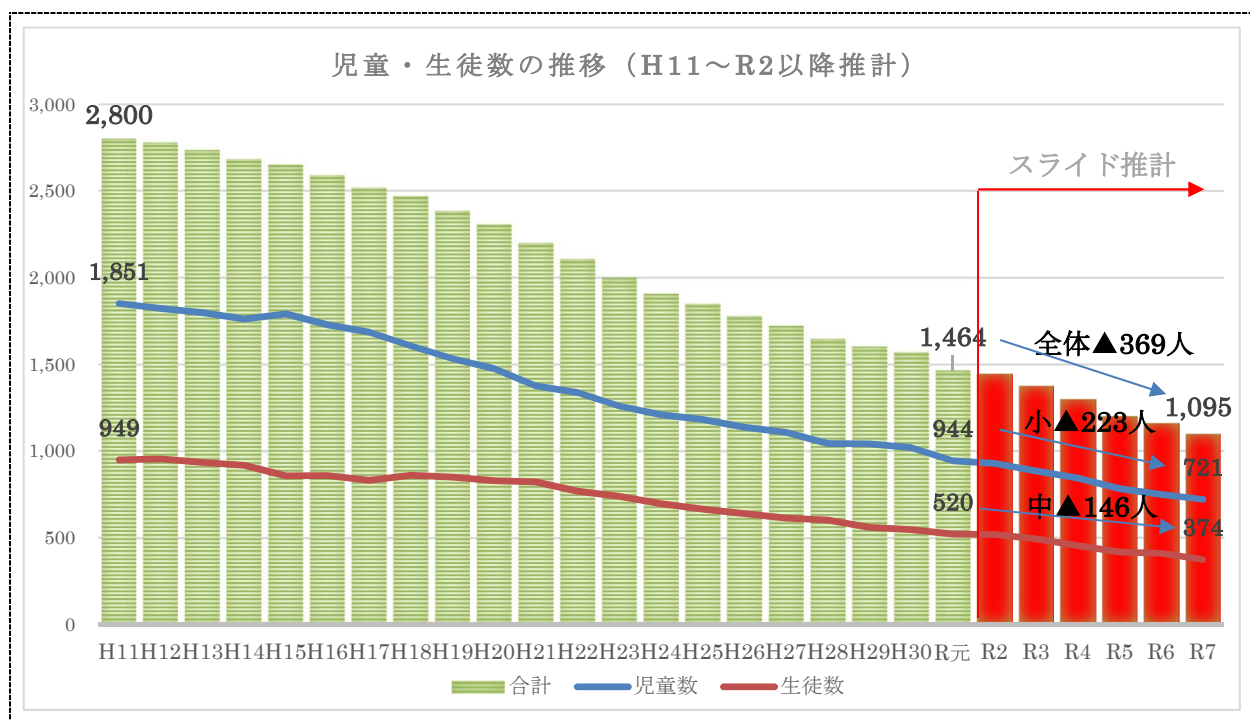
よって、転入、転出等の社会動態による増減及び私立小中校に通学することとなる児童生徒については、推計値に反映はしていない。また、標準学級数は、学校教育法等法令に基づく数値であり、実際の学級数と複式学級の組み合わせ等とは異なる。

【令和2年度以降の学校数、児童・生徒数及び標準学級数】\*元年度（H31）実績

	学 校 数			児 童・生 徒 数			標 準 学 級 数		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
元	8	4	12	944	520	1,464	53	22	75
2	8	4	12	928	519	1,447	50	22	72
3	8	4	12	884	492	1,376	50	21	71
4	8	4	12	843	454	1,297	51	21	72
5	8	4	12	783	418	1,201	49	20	69
6	8	4	12	750	410	1,160	48	19	67
7	8	4	12	721	374	1,095	46	18	64

\*元年度（H31）実績、特別支援児童生徒含む

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調



※ 各校別児童生徒数の将来推計については、各校の前年度入学率を乗じて得た数値であり、校区住民記録に基づく数値ではない。

(入学率スライド推計)

(直近3年間の当該学校入学児童数 / 入学児童の出生年度3カ年度の出生数)

× 当該入学予定児童の出生年度の出生数

## 【第一小学校】

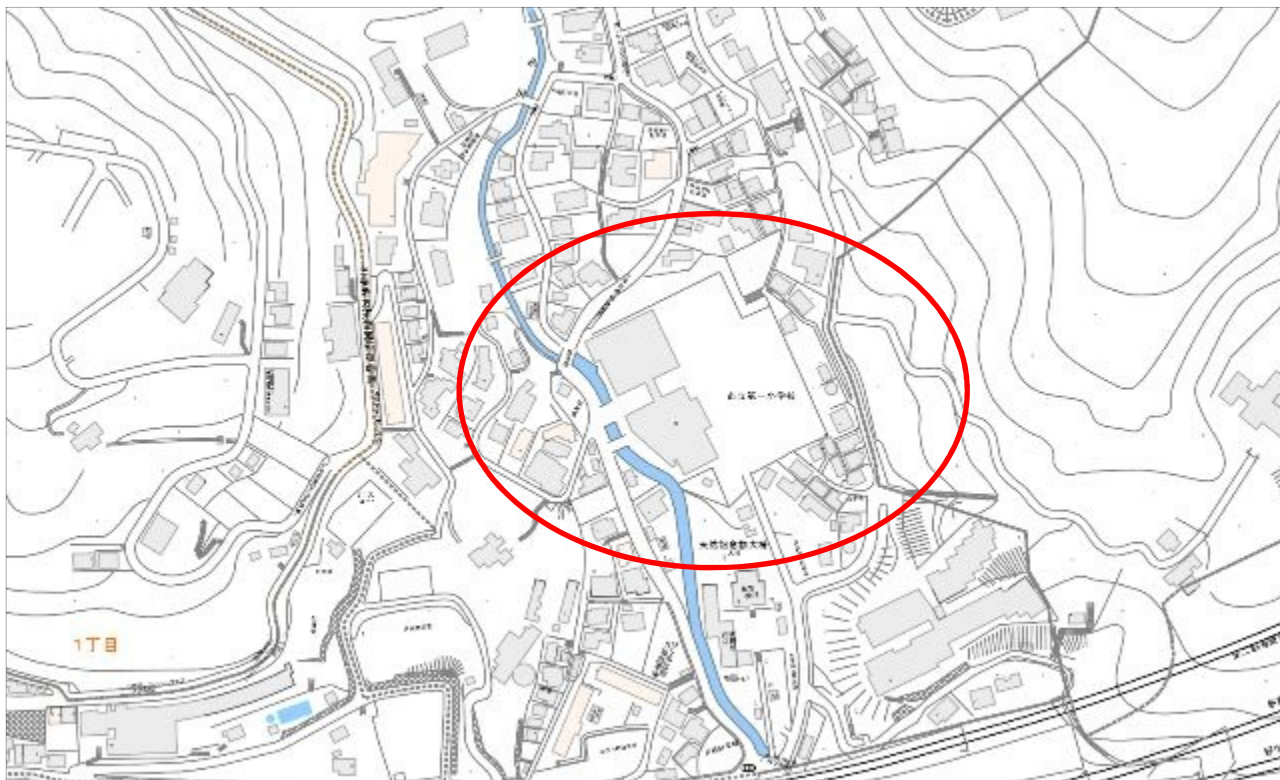
### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市西山町 41 番 1 号

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

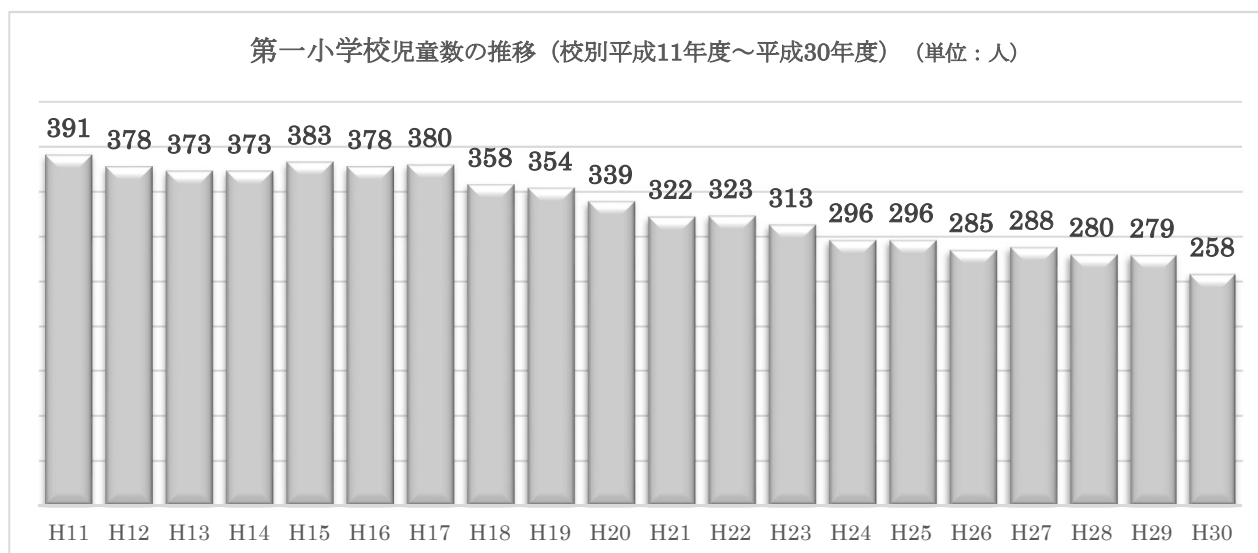
児童数 234 人、学級数 12 学級、教職員数 34 人

③ 校地面積 12,651 m<sup>2</sup>、校舎総面積 9,322 m<sup>2</sup>、運動場面積 6,000 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

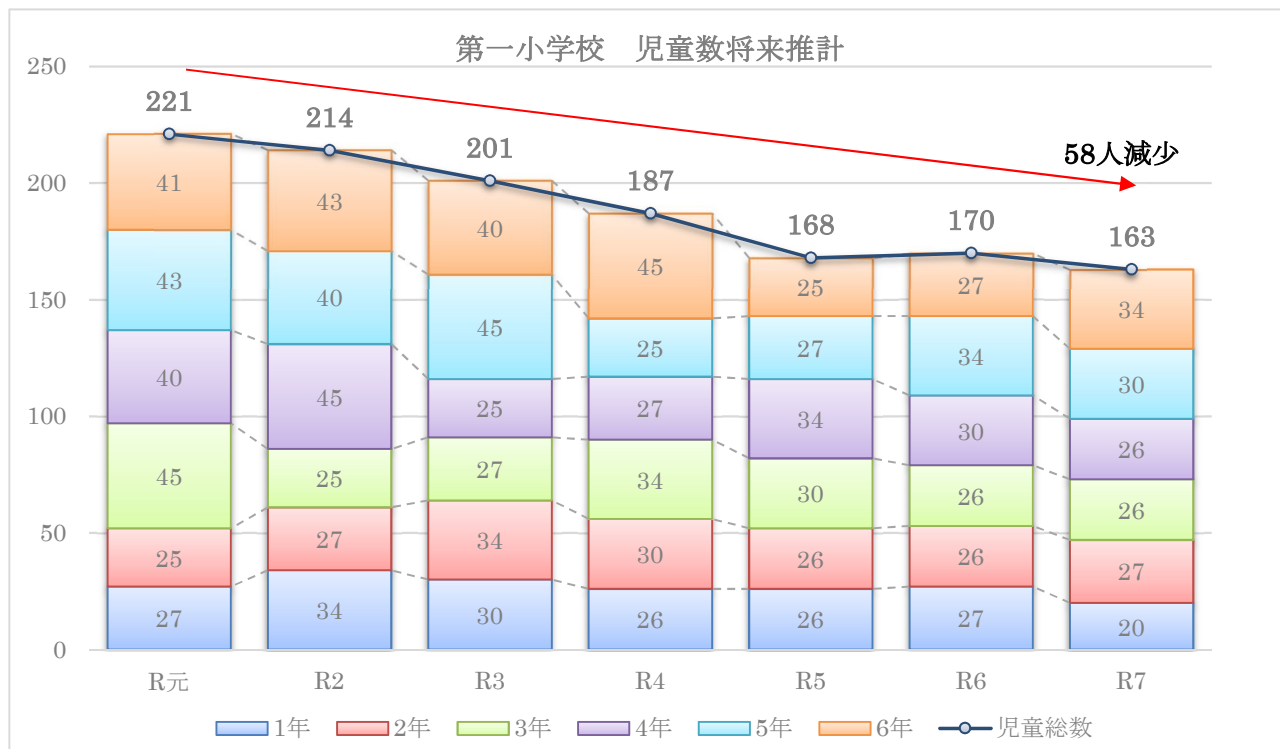
H11－H30 133 人、34.0%の減少



出所：学校基本調査

◆ 将来推計（スライド推計） ※ 推計値は、前年度入学率を乗じて算出

令和元年5月1日実績児童総数221人から令和7年までの間に58人が減少する見込みである。標準学級数は、複式学級の発生はないものの、令和元年9学級から6学級まで減少し、令和5年以降各学年1クラスとなる。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

熱海市市街地に位置する基幹小学校として維持していく。その際、令和7年度を起点として、「桃山小学校」、「伊豆山小学校」の児童数の推移を踏まえ、両校との統合を検討していく。

なお、平成6年に施設を整備して以降、25年が経過しているため、校舎及び体育館、並びに運動場等の改修修繕を計画的に進める。

## 【第二小学校】

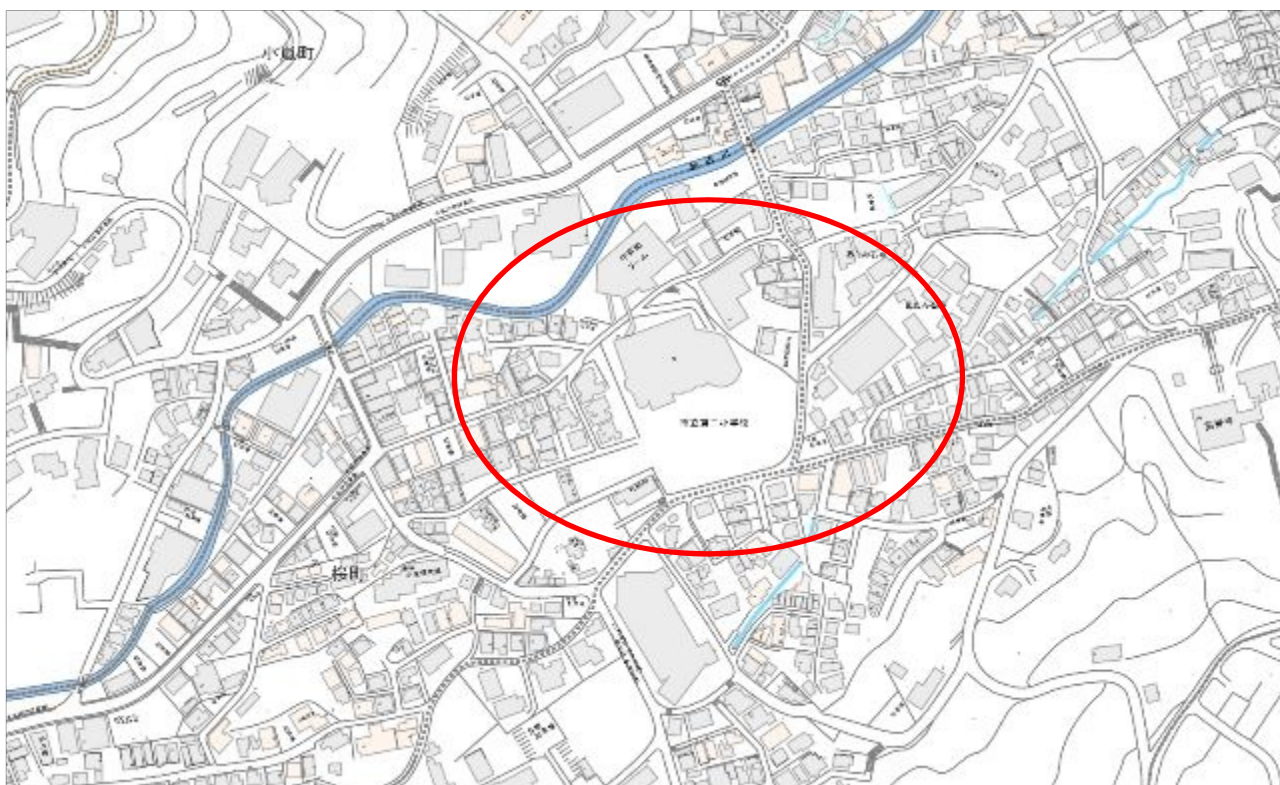
### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市桜町 3 番 20 号

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

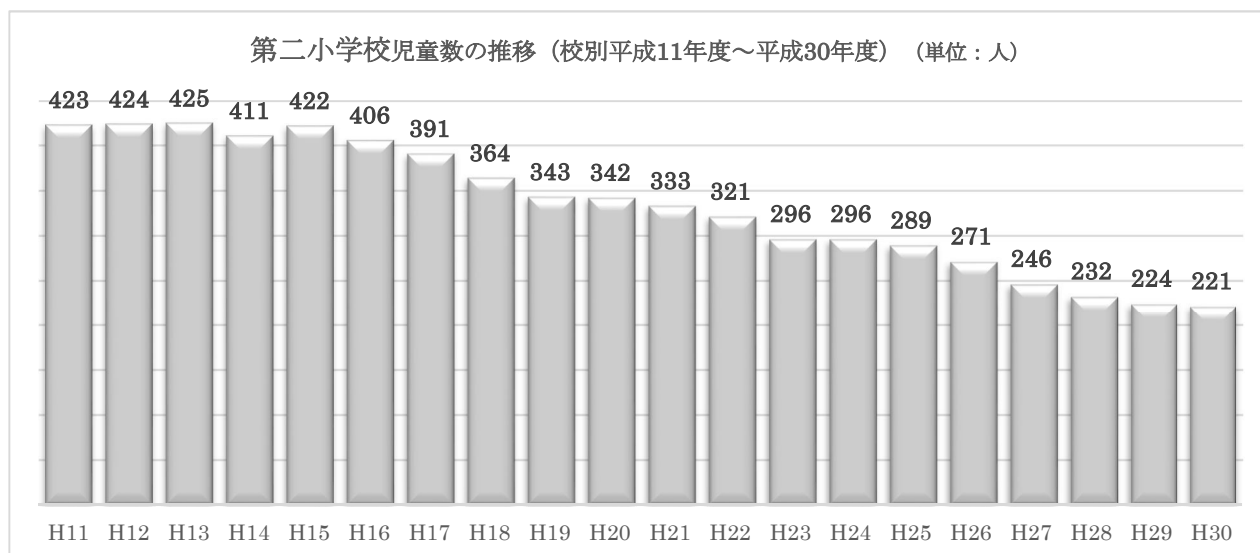
児童数 193 人、学級数 8 学級、教職員数 26 人

③ 校地面積 12,469 m<sup>2</sup>、校舎総面積 9,242 m<sup>2</sup>、運動場面積 4,042 m<sup>2</sup>



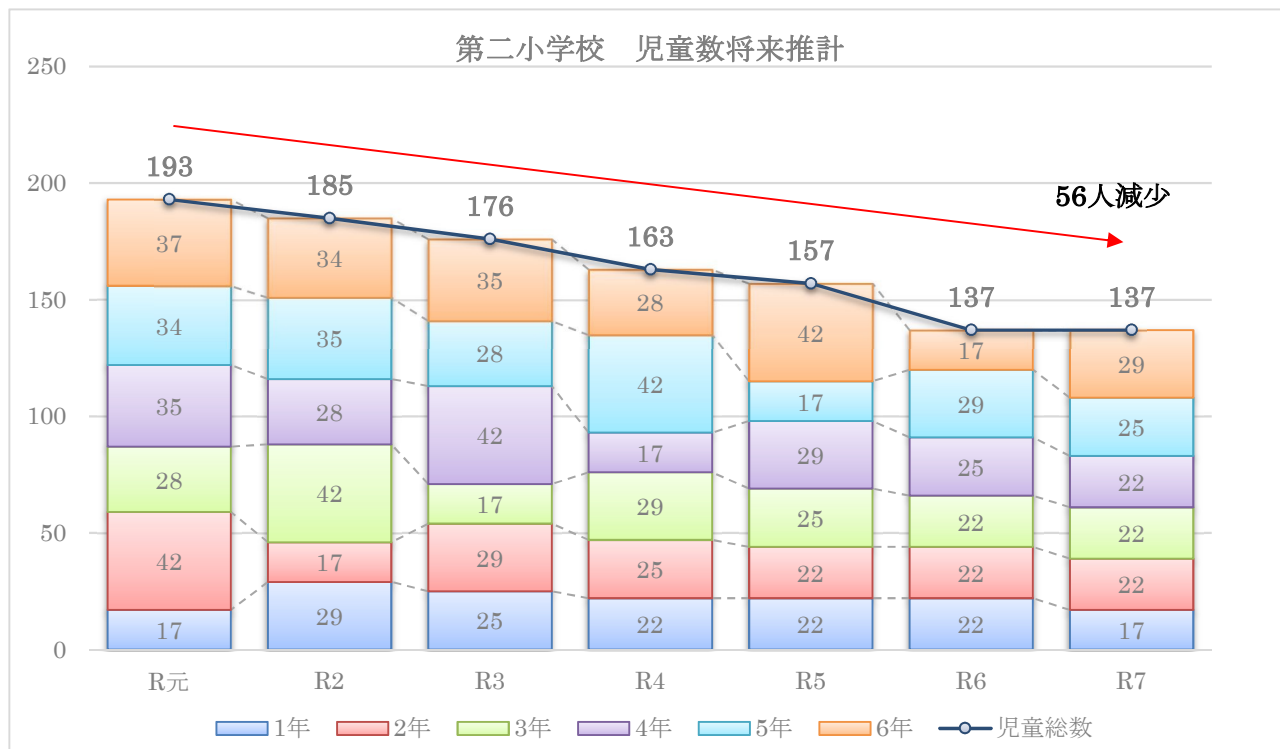
### ◆ 過去 20 年間の推移

H11－H30 202 人、47.8%の減少



◆ 将来推計（スライド推計） ※ 推計値は、前年度入学率を乗じて算出

令和元年5月1日実績児童総数193人から令和7年までの間に56人が減少する見込みである。標準学級数は、複式学級の発生はないものの、令和元年7学級から6学級まで減少し、令和6年以降各学年1クラスとなる。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

令和2年度に開設する幼保連携型認定こども園を校内に有し、就学前教育保育の充実にあわせ、小学校への系統的な教育の実施による効果が期待される。

今後、中長期的には、認定こども園とともに小学校についても維持していくが、出生数の推移及び就学前教育の需要、小学校児童数の推移を注視していく。

なお、平成6年から7年にかけて校舎及び体育館を整備して以降、25年程度経過しており、こども園の整備と合わせて一部外壁等の改修を実施しているが、引き続き計画的に修繕等を行っていく。

## 【多賀小学校】

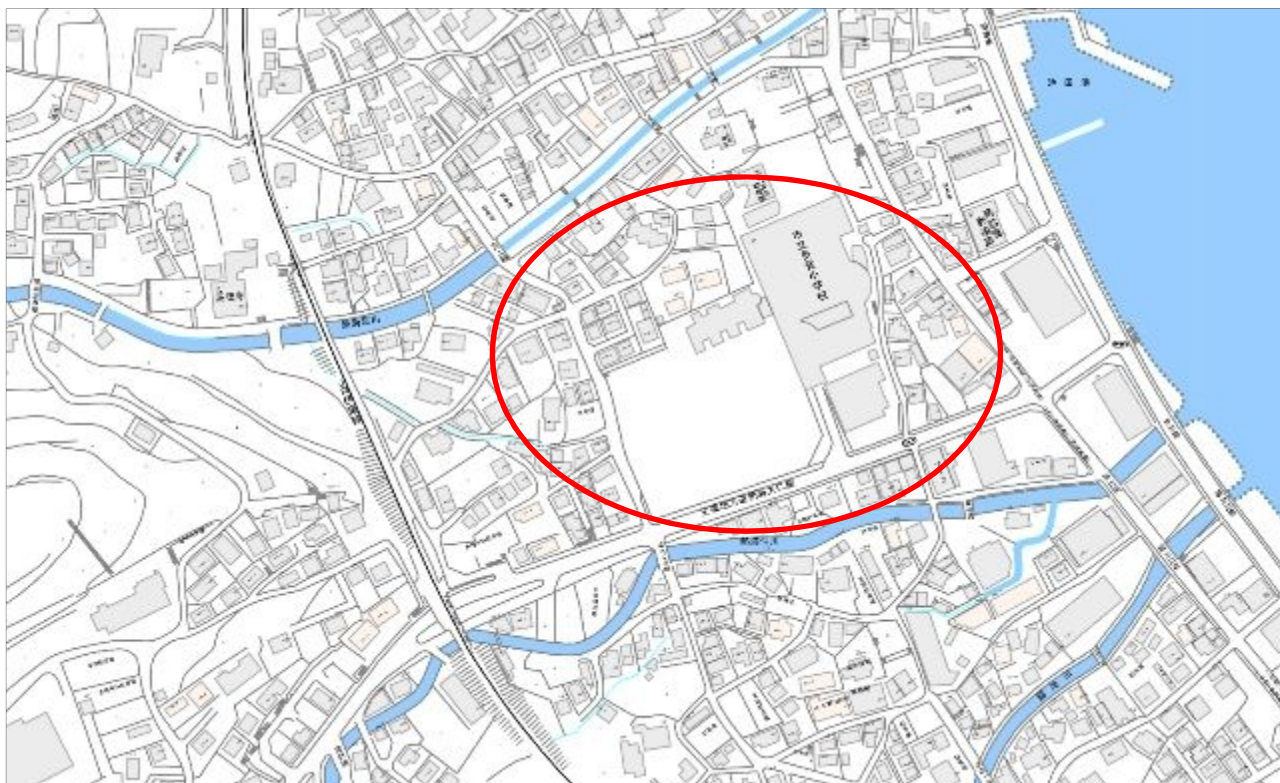
### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市下多賀 920 番地の 1

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

児童数 338 人、学級数 14 学級、教職員数 31 人

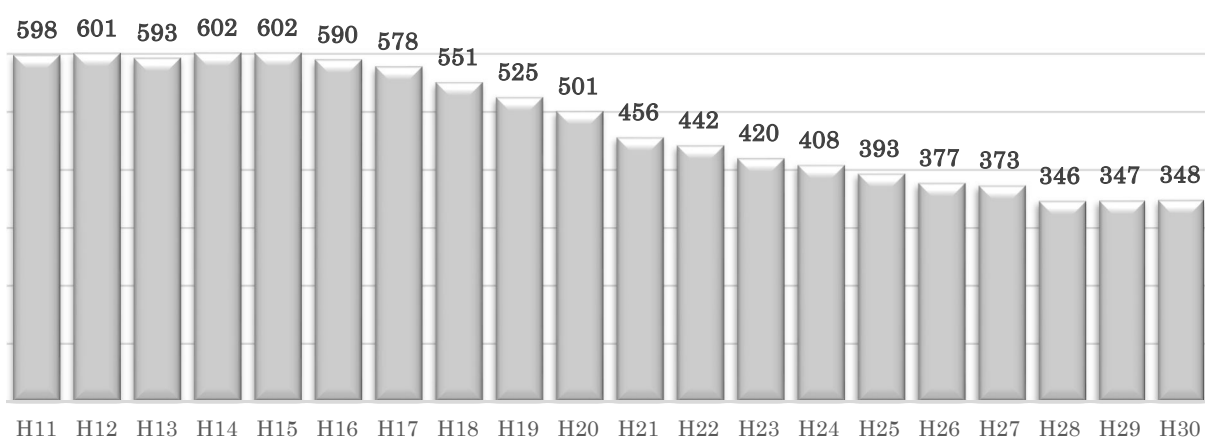
③ 校地面積 19,020 m<sup>2</sup>、校舎総面積 8,712 m<sup>2</sup>、運動場面積 7,881 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

H11－H30 250 人、41.8%の減少

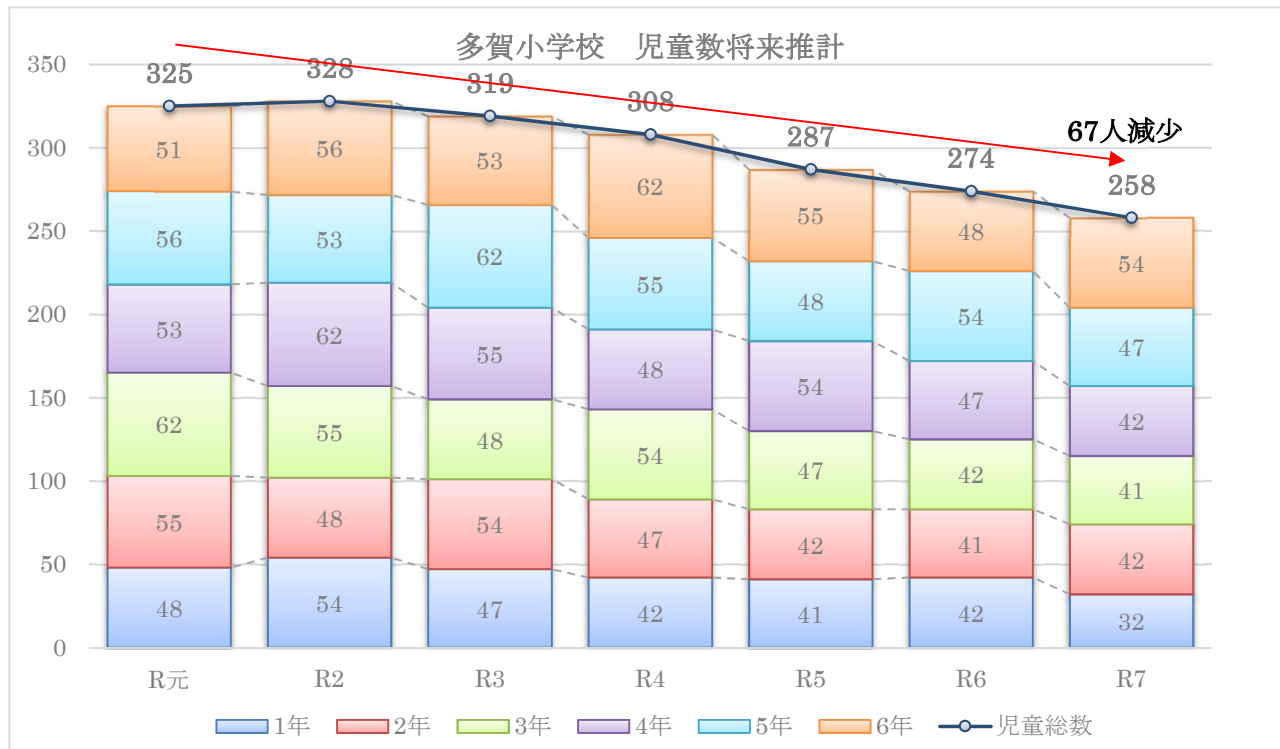
多賀小学校児童数の推移（校別平成11年度～平成30年度）（単位：人）





◆ 将来推計（スライド推計） ※ 推計値は、前年度入学率を乗じて算出

令和元年5月1日実績児童総数 325 人から令和7年までの間に 67 人が減少する見込みである。標準学級数は、複式学級の発生はないものの、令和元年 12 学級から 11 学級に減少する。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

南熱海地区における基幹校として、また、市内小学校において最大児童数を持つ小学校であり、長期的に維持していく。さらに、令和3年度には、同地区に位置する小規模校の網代小学校との統合を進める。

あわせて、学校施設に近接する多賀幼稚園との系統を意識した幼稚園と小学校の連携した教育を進めていく。

なお、平成元年に校舎等が竣工し、30年程度経過しているため屋根等の大規模防水工事等を計画的に実施してきているが、今後も引き続き校舎等の長寿命を図る工事の施工を計画的に実施していく。

## 【伊豆山小学校】

### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市伊豆山 711 番地

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

児童数 58 人、学級数 6 学級、教職員数 14 人

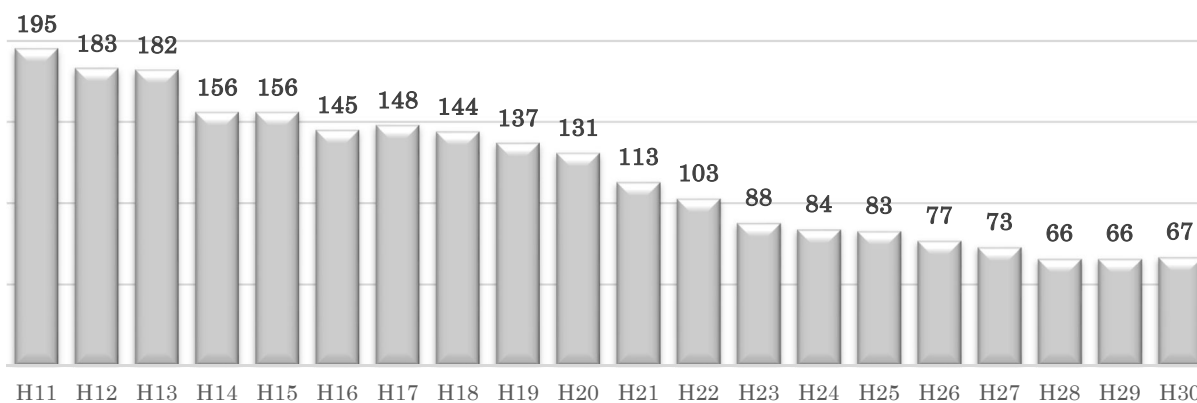
③ 校地面積 9,655 m<sup>2</sup>、校舎総面積 4,507 m<sup>2</sup>、運動場面積 4,230 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

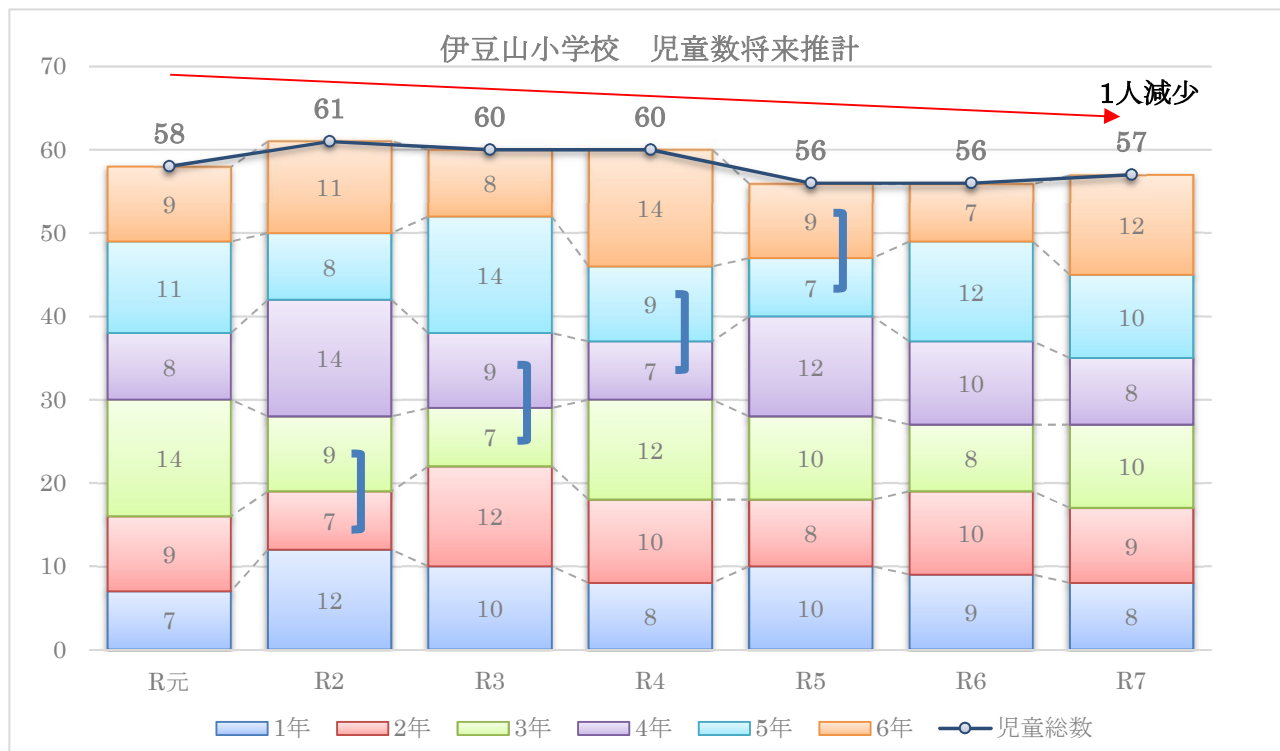
H11－H30 128 人、65.6%の減少

伊豆山小学校児童数の推移（校別平成11年度～平成30年度）（単位：人）



◆ 将来推計（スライド推計） ※校区住民記録に基づき算出

令和元年5月1日実績児童総数58人から令和7年までの間に1人が減少する見込みである。標準学級数は、令和元年6学級から5学級に減少し、令和2年以降複式学級が発生するが令和6年に解消し6学級となる。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

児童数は、近年及び中期的推計ではほぼ横ばいで推移するものの、一部の学年で複式学級となるなど、今後の児童数の推移に注視し、集団生活の中での多様な価値観の醸成など、現状の教育環境の変化を踏まえ、中期的に市街地に位置する「第一小学校」との統合を検討していく。

このことと合わせて、併設する「伊豆山幼稚園」は、保育需要の高まりによる幼稚園入園需要の減少が顕著であり、小学校の統合検討とあわせて、維持継続または、休園等について検討していく。

なお、現在の校舎等は平成2年に整備されており、現状、大きな不具合を生じてはいないが、必要に応じて修繕等を行っていく。

## 【桃山小学校】

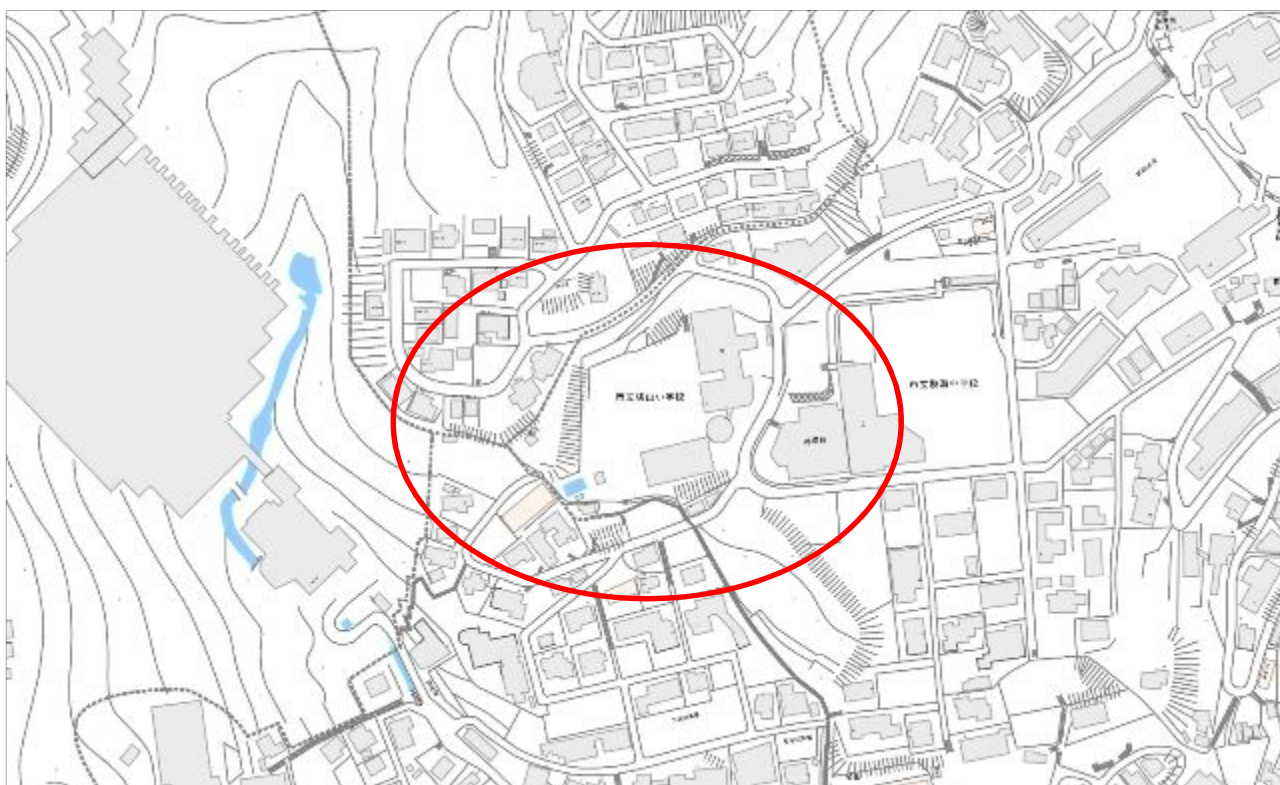
### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市桃山町6番5号

② 児童数等（平成31年4月1日現在）

児童数 53人、学級数 5学級、教職員数 14人

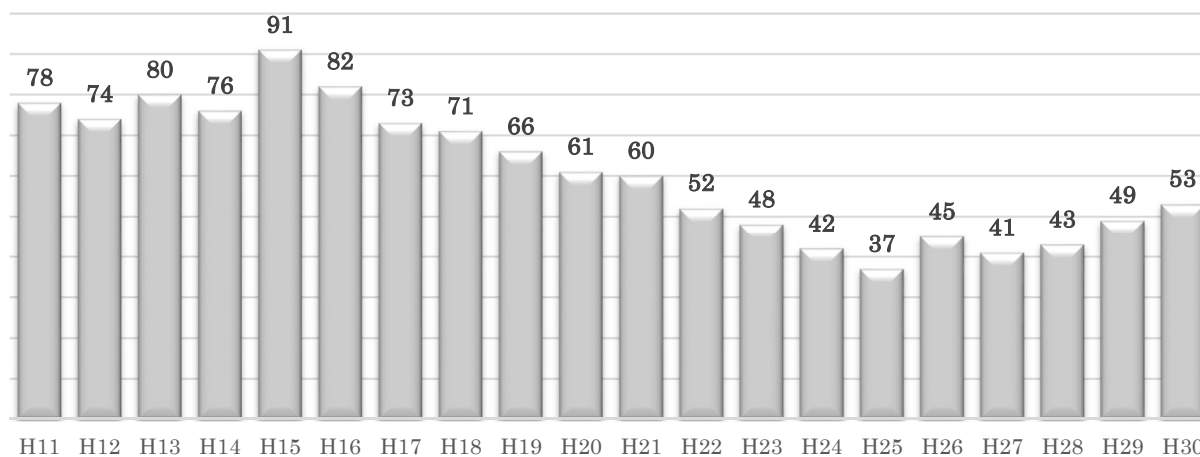
③ 校地面積 12,784 m<sup>2</sup>、校舎総面積 4,022 m<sup>2</sup>、運動場面積 4,600 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去20年間の推移

H11－H30 25人、32.1%の減少

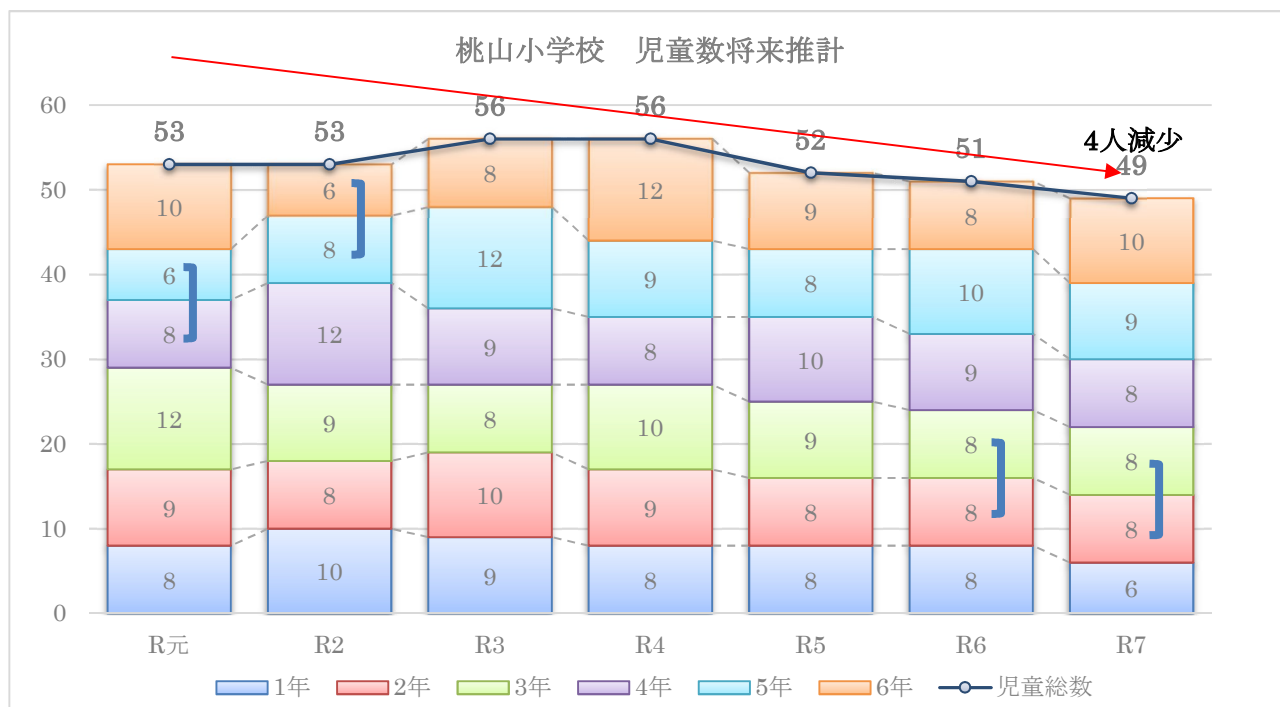
桃山小学校児童数の推移（校別平成11年度～平成30年度）（単位：人）



出所：学校基本調査

◆ 将来推計（スライド推計） ※ 推計値は、前年度入学率を乗じて算出

令和元年5月1日実績児童総数53人から令和7年までの間に4人が減少する見込みである。標準学級数は、令和元年以降5学級で推移する。令和2年まで複式学級が発生していたものの、令和3年から令和5年までの間一時解消し、新たに令和6年以降再発生する。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

< 令和2年度以降の方向性 >

（方向性）

当該校区における民間企業への就労増加及び大規模マンションの建設に伴う住民増加が見られ、短期的に複式学級が解消される見込みである。

今後、校区内住民の増減動向を注視していくことと合わせて、さらに集団生活等の教育環境を整えていく観点から、市街地に位置する「第一小学校」との統合を中期的に検討していく。

なお、昭和60年に校舎等が完成した以降、35年程度経過しており、雨漏り等中規模の改修が必要となっている状況を踏まえ、計画的な工事等を行っていく。

## 【網代小学校】

### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市網代 195 番地

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

児童数 20 人、学級数 3 学級、教職員数 11 人

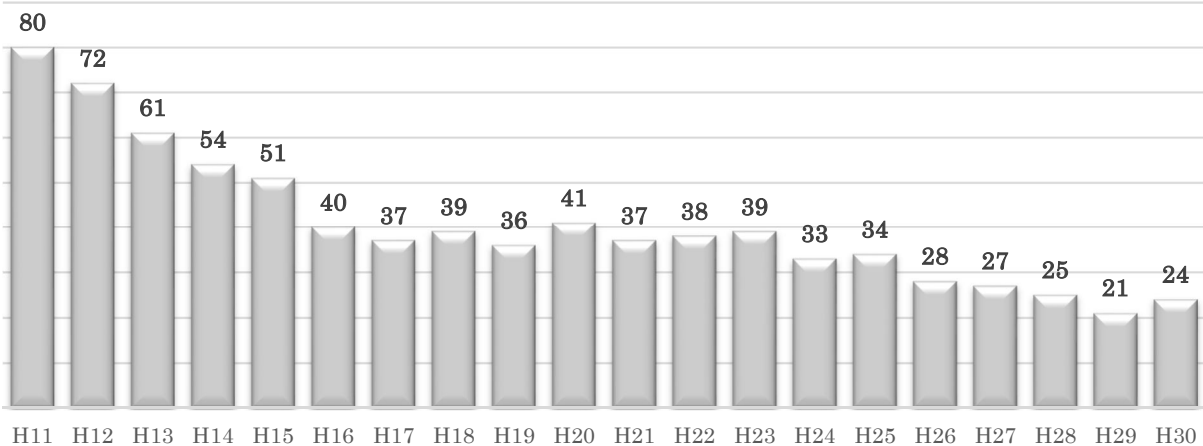
③ 校地面積 8,021 m<sup>2</sup>、校舎総面積 4,734 m<sup>2</sup>、運動場面積 3,088 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

H11－H30 56 人、70.0%の減少

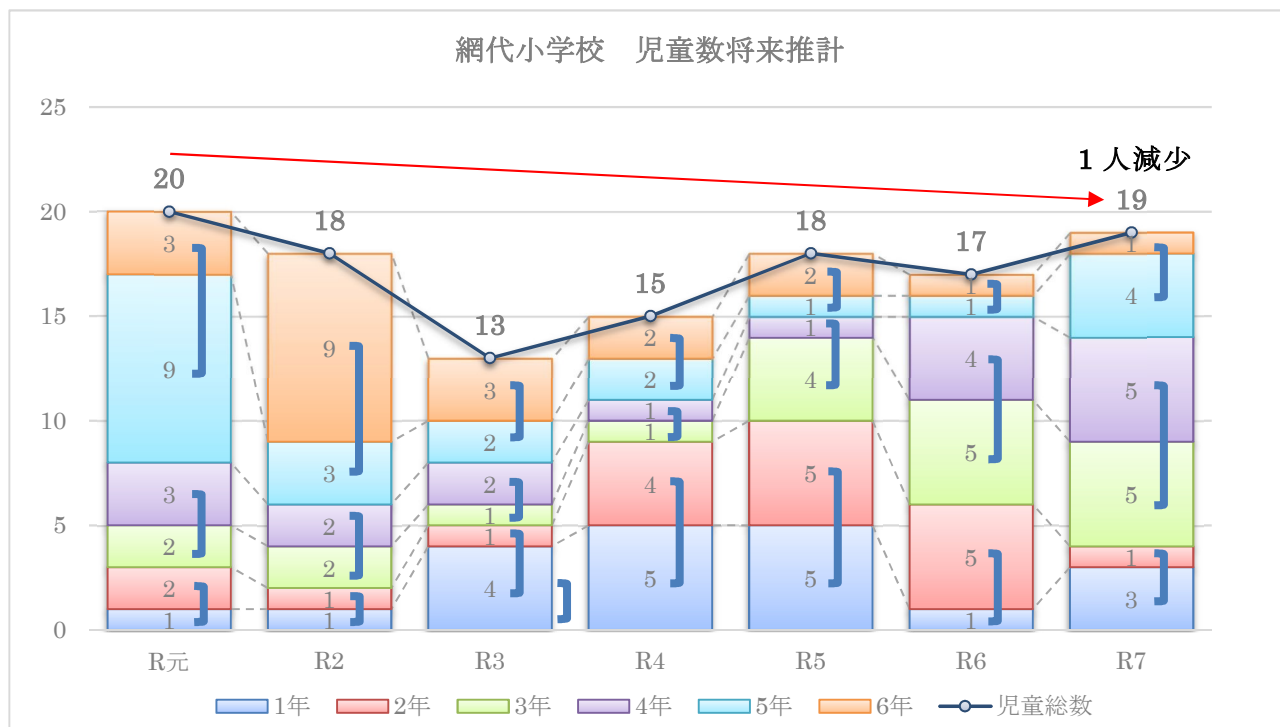
網代小学校児童数の推移（校別平成11年度～平成30年度）（単位：人）



出所：学校基本調査

◆ 将来推計（スライド推計） ※校区住民記録に基づき算出

令和元年5月1日実績児童総数20人から令和7年までの間に1人が減少する見込みである。標準学級数は、全学年で複式学級が生じ、令和元年以降3学級で推移する。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

網代地区においては、出生数はもとより高齢化の進展による地区人口の減少が著しく、推計児童数は、令和3年度に10名程度まで減少する見込みである。また、各学年すべてにおいて複式学級となっていることや令和2年度の実質的な入学者が見込まれていない。

このことを踏まえ、小規模校としての利点等はあるものの、集団生活から得られる多様な価値観を育成することや一定の競争力を身に付けることなど、児童の教育環境の整備は急務となっていることを踏まえ、令和3年度に「多賀小学校」との統合を進める。

なお、現在、雨漏り等で支障となっている施設の修繕等を必要に応じて対応していく。

## 【泉小学校】

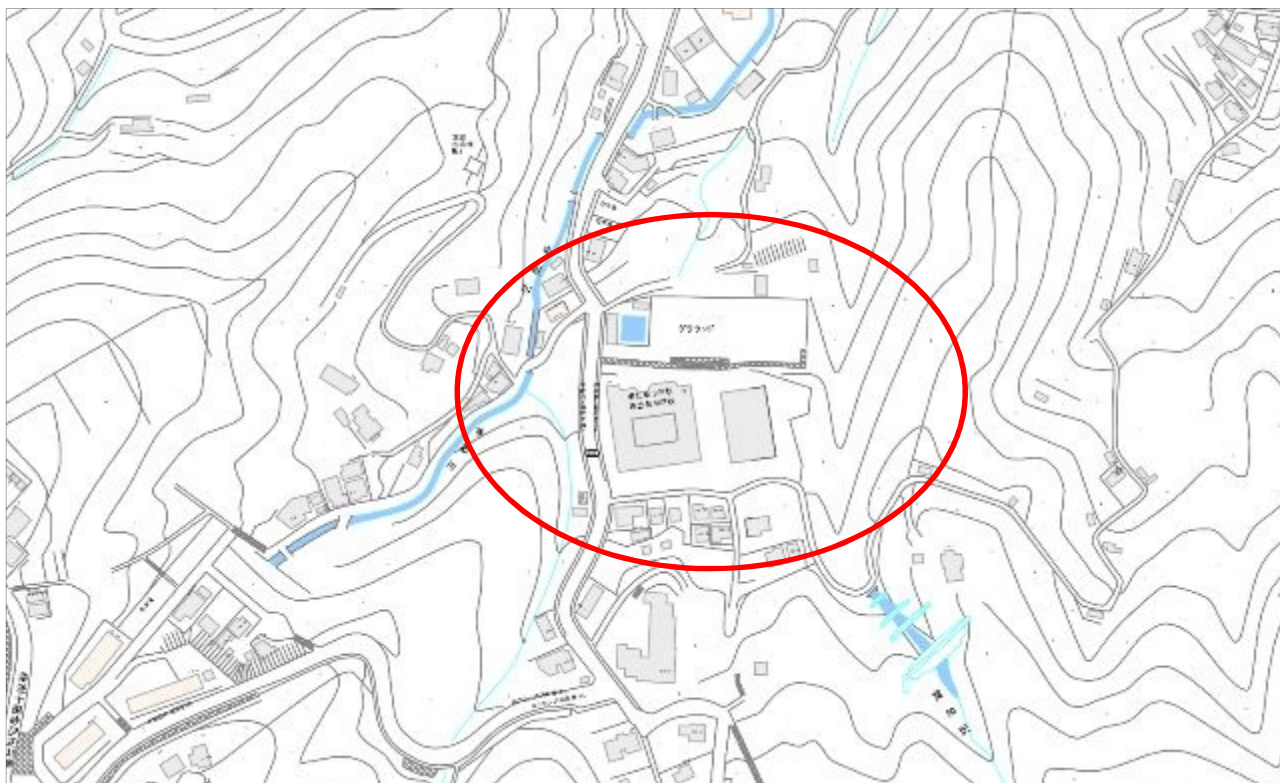
### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市泉 280 番地

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

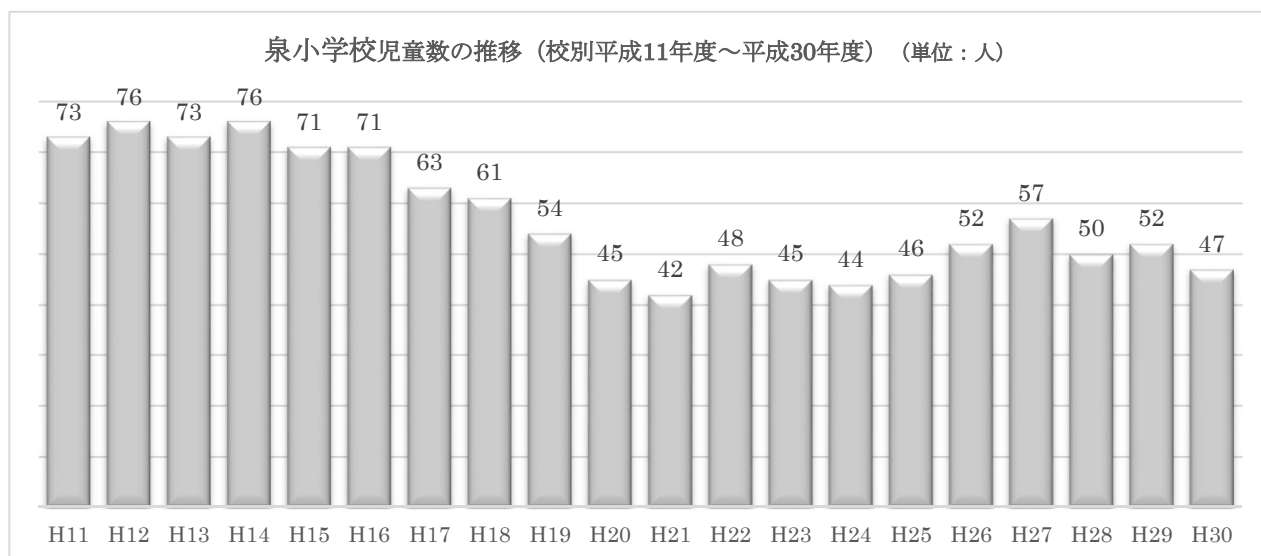
児童数 43 人、学級数 5 学級、教職員数 11 人

③ 校地面積 12,152 m<sup>2</sup>、校舎総面積 2,843 m<sup>2</sup>、運動場面積 3,937 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

H11－H30 26 人、35.6%の減少

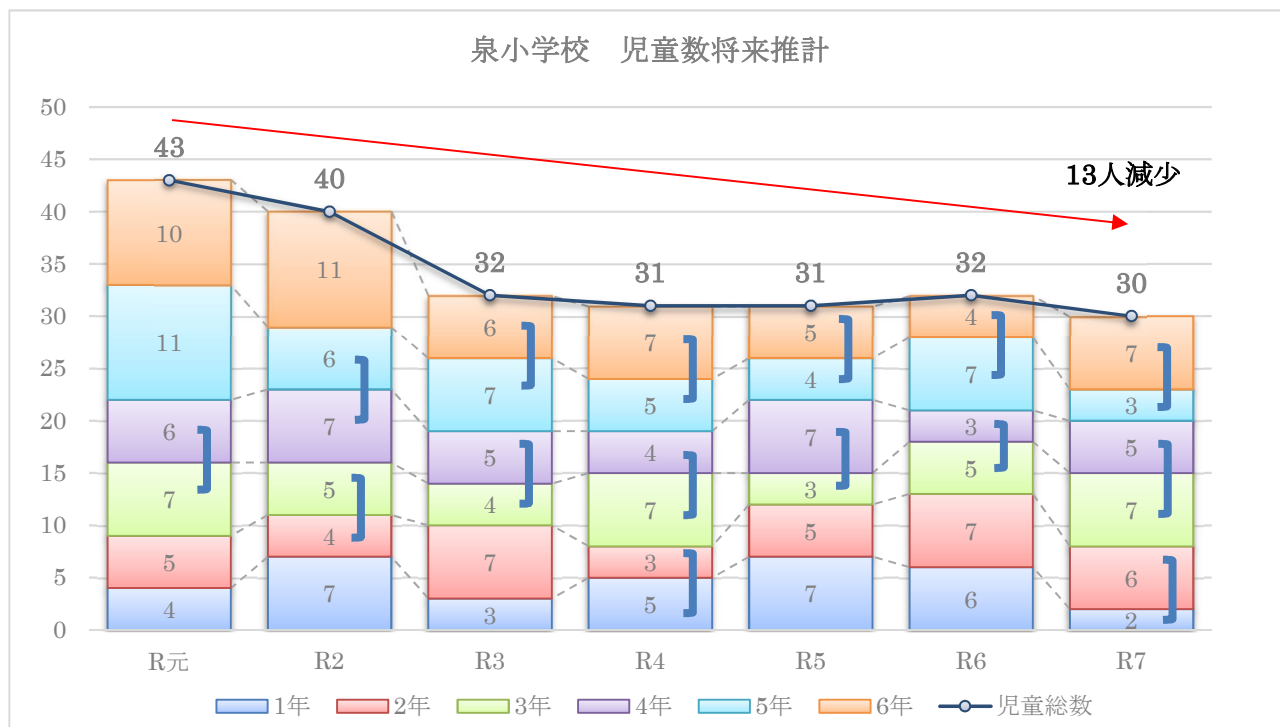


出所：学校基本調査



◆ 将来推計（スライド推計） ※校区住民記録に基づき算出

令和元年5月1日実績児童総数43人から令和7年までの間に13人が減少する見込みである。標準学級数は、令和元年5学級から3学級に減少し、令和4年、7年には全学年が複式学級となる。



出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

当該校区の住民等の推移は、これまで及び今後長期的には、ほぼ横ばいで推移する見込みである。あわせて、児童数についても、30名程度で推移すると見込まれる。

今後、中長期的に、児童数の急激な減少等に注視して、状況に応じた措置を検討していくとともに、泉地区が市街地から遠隔に位置し、神奈川県との県境にあることから、他校との統合については慎重に検討していく。このことを踏まえ、泉小中学校及び泉幼稚園における教育環境の充実と学校運営の魅力向上を図るため、教職員の配置と教育課程の着実な実施を前提に小中一貫した教育の実施のため「義務教育学校」への移行の可能性を検討していく。

## 【初島小学校】

### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市初島 219 番地

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

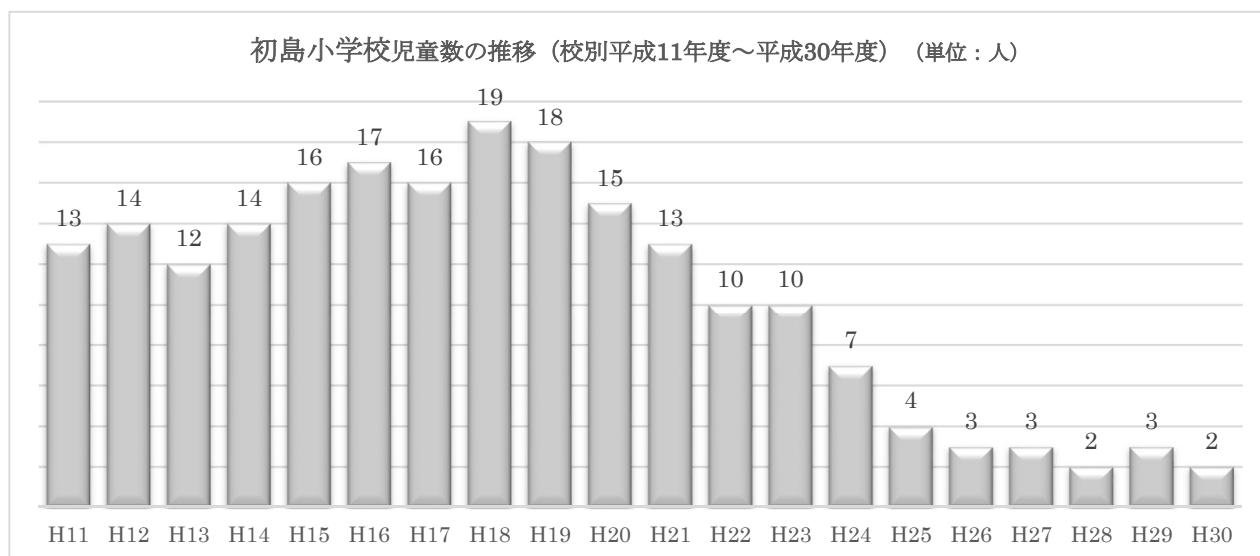
児童数 5 人、学級数 2 学級、教職員数 5 人

③ 校地面積 4,805 m<sup>2</sup>、校舎総面積 1,169 m<sup>2</sup>、運動場面積 924 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

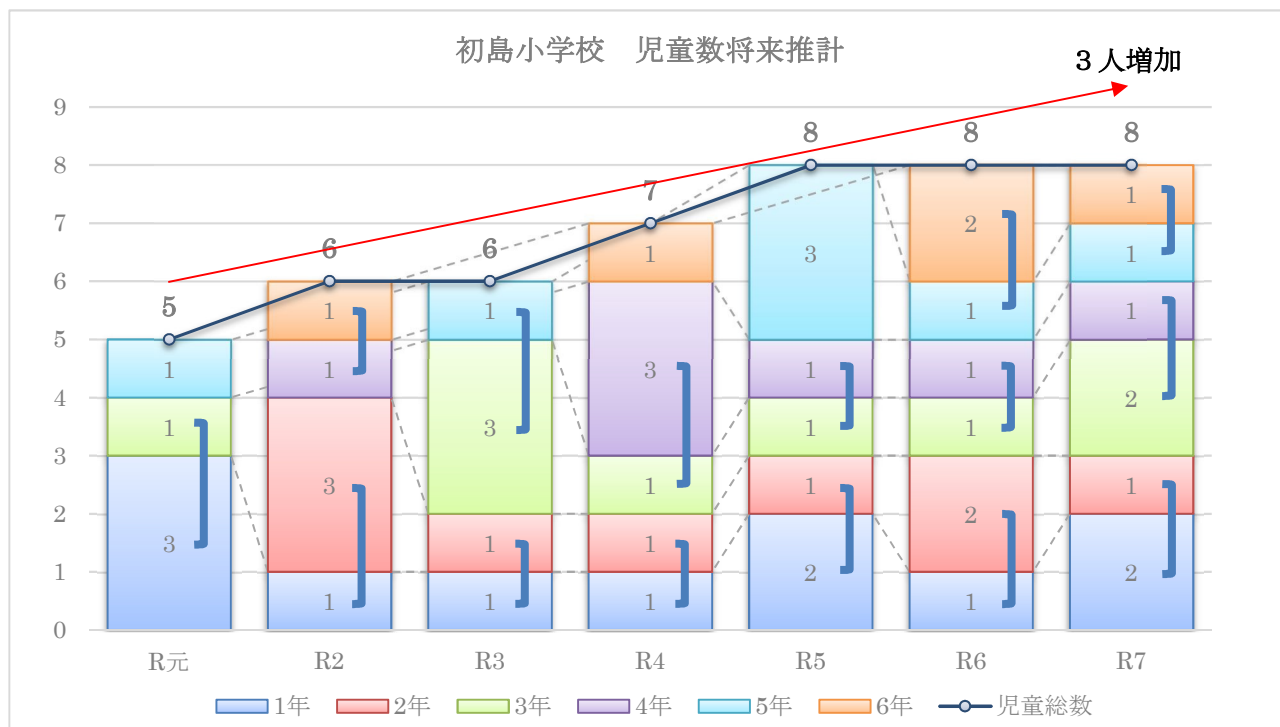
H11－H30 11 人、84.6%の減少



出所：学校基本調査

◆ 将来推計（スライド推計） ※校区住民記録に基づき算出

令和元年5月1日実績児童総数5人から令和7年までの間に3人が増加する見込みである。標準学級数は、令和元年2学級から3学級に増加するも、引き続き複式学級が発生する。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

静岡県内唯一の離島に所在する学校として、児童生徒数の如何を問わず、初島小学校及び初島中学校として、維持していく。

なお、学校施設については、平成30年度に屋根等の大規模防水工事を実施しており、現状、学校内活動等に支障は生じていないが、立地上、風水害の影響を受けやすいことから、緊急応急的な修繕等を必要に応じて実施していく。

また、インターネット環境は、市街地と比べ満足な状態ではないが、試行的な遠隔教育等の実施を検討していく。

【熱海中学校】

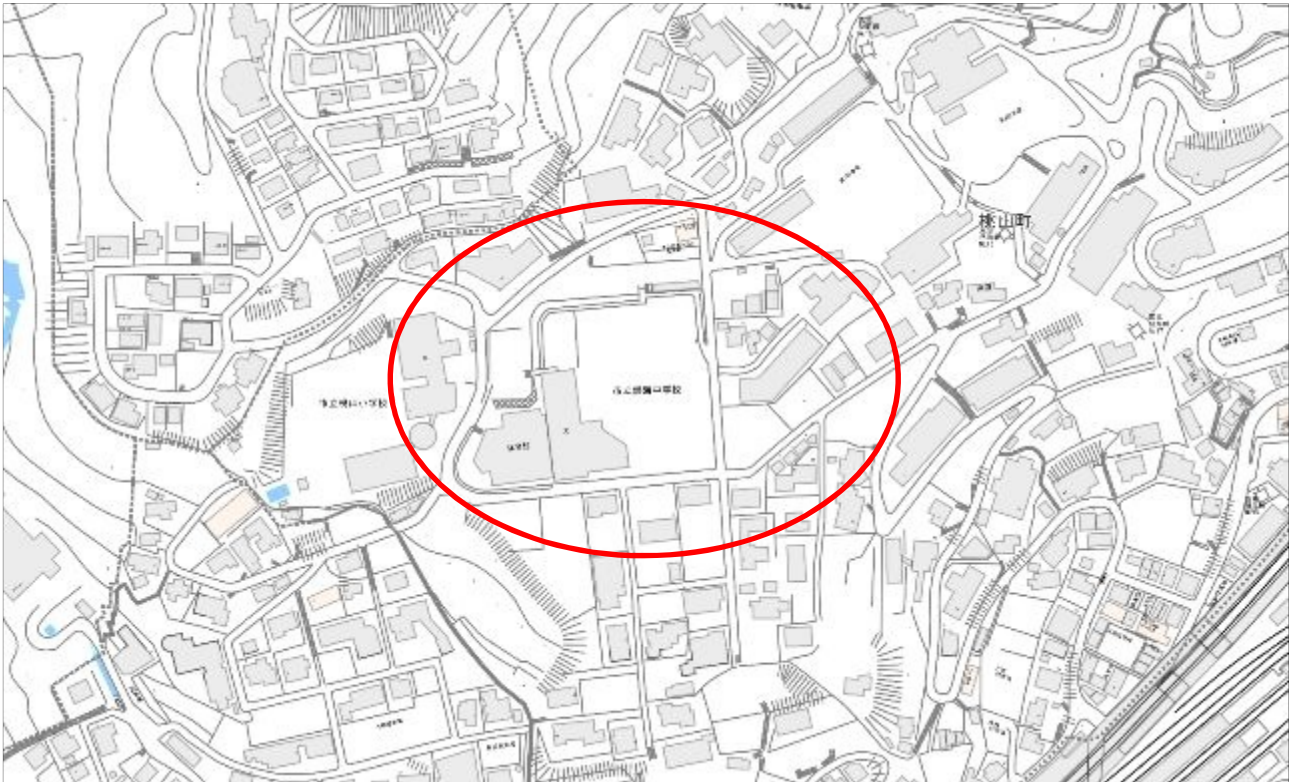
◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市桃山町7番7号

② 生徒数等（平成31年4月1日現在）

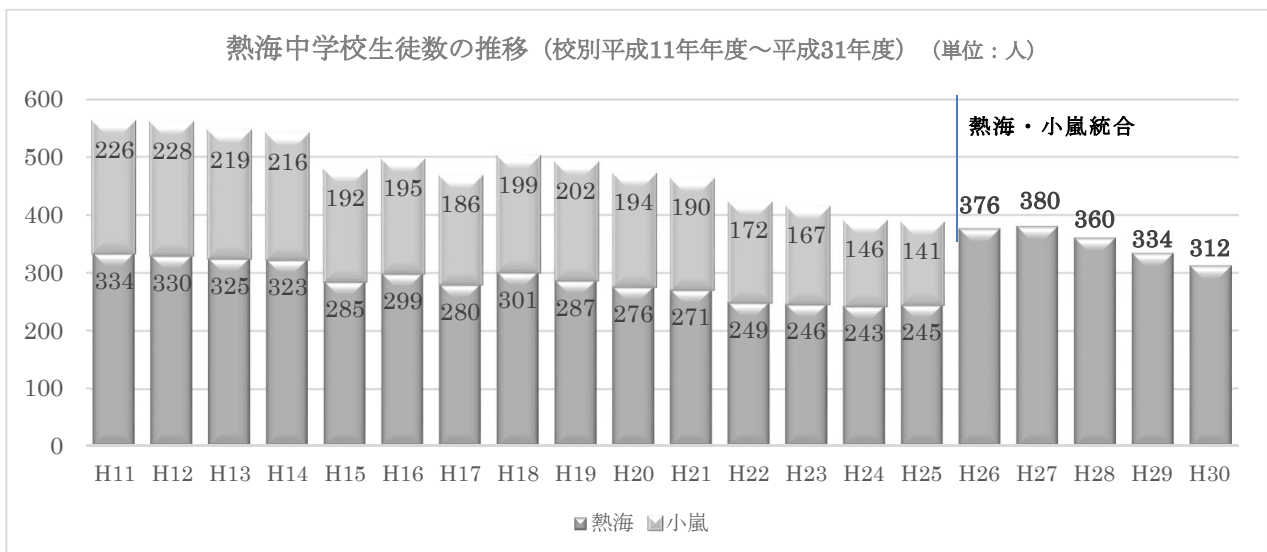
生徒数 308人、学級数 12学級、教職員数 31人

③ 校地面積 14,798㎡、校舎総面積 6,931㎡、運動場面積 6,000㎡



◆ 過去20年間の推移

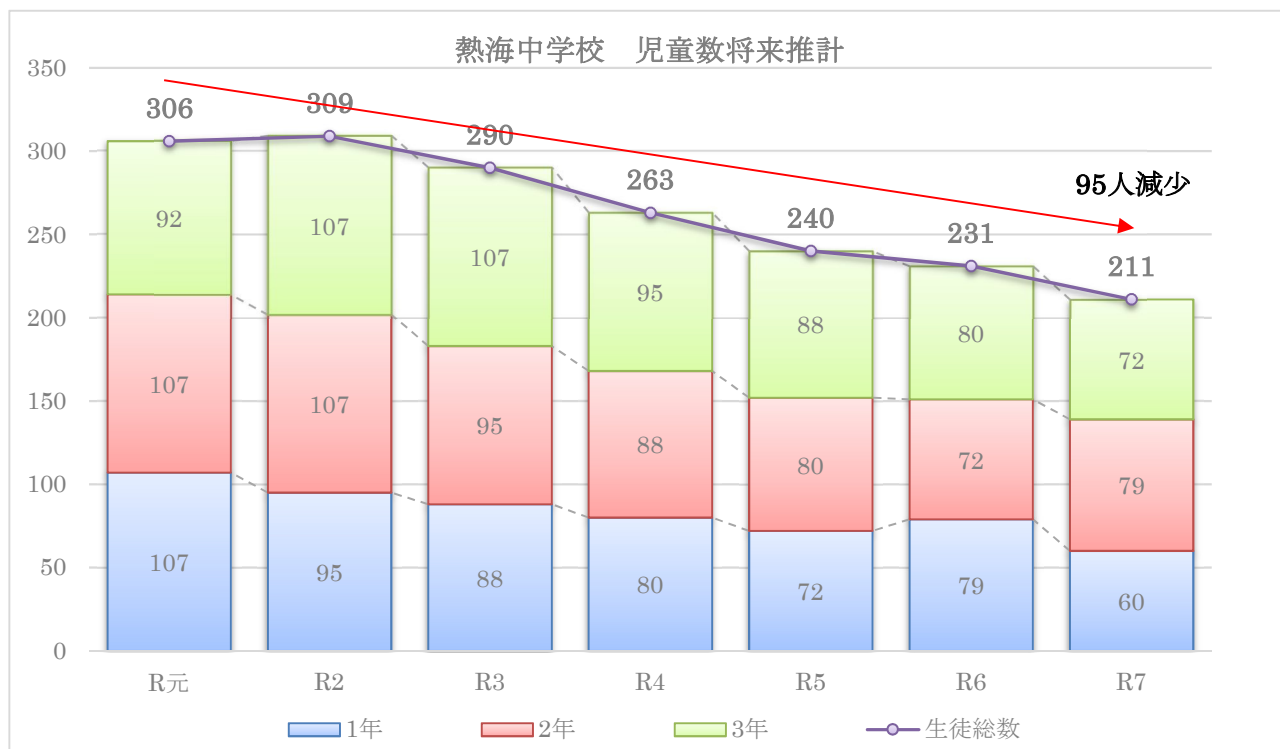
H11－H30 248人、44.3%の減少



出所：学校基本調査

◆ 将来推計（スライド推計） ※ 推計値は、前年度入学率を乗じて算出

令和元年5月1日実績児童総数 306 人から令和7年までの間に 95 人が減少する見込みである。標準学級数は、令和元年9学級から6学級に減少する。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

平成26年度に「小嵐中学校」との統合により、市街地の基幹中学校として位置づけている。

今後の生徒数の推移は、中長期的に見て減少の傾向を示しているものの、引き続き現状のとおり維持していく。

また、校舎等は、建築更新により現状良好なっているものの、体育館については、外壁等構造的な修繕が必要となっている状況を踏まえ、計画的な改修等を実施していく。

## 【多賀中学校】

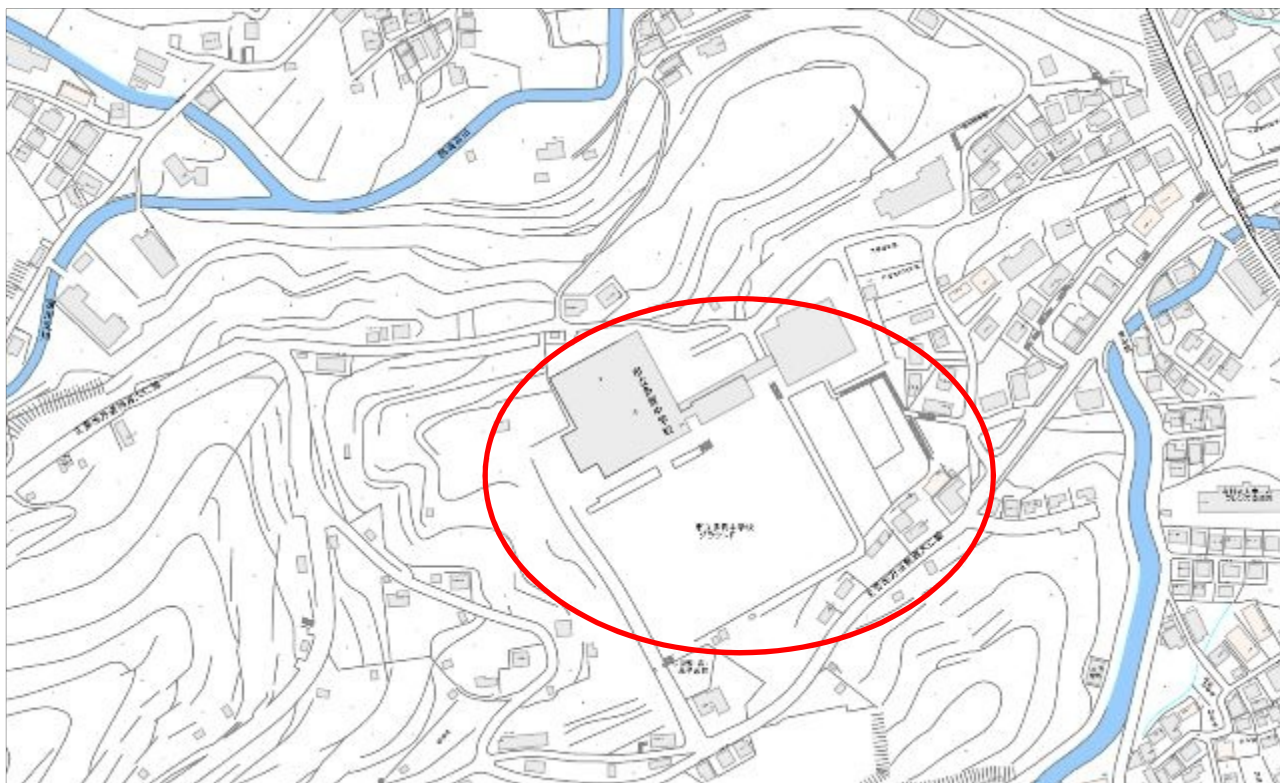
### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市下多賀 1549 番地の 1

② 生徒数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

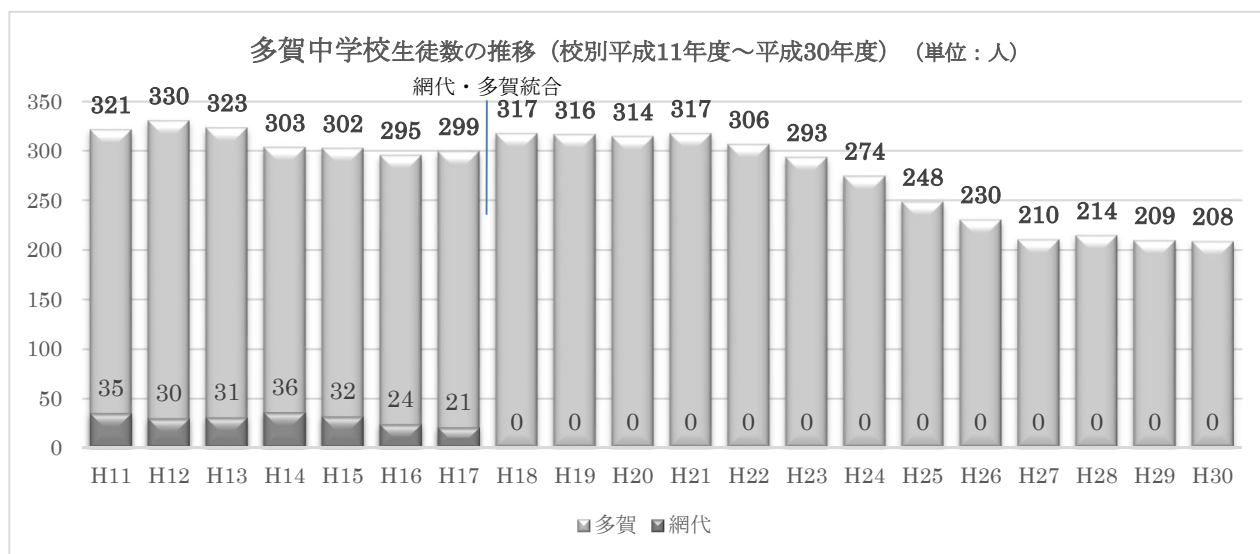
生徒数 193 人、学級数 8 学級、教職員数 23 人

③ 校地面積 36,405 m<sup>2</sup>、校舎総面積 8,613 m<sup>2</sup>、運動場面積 15,115 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

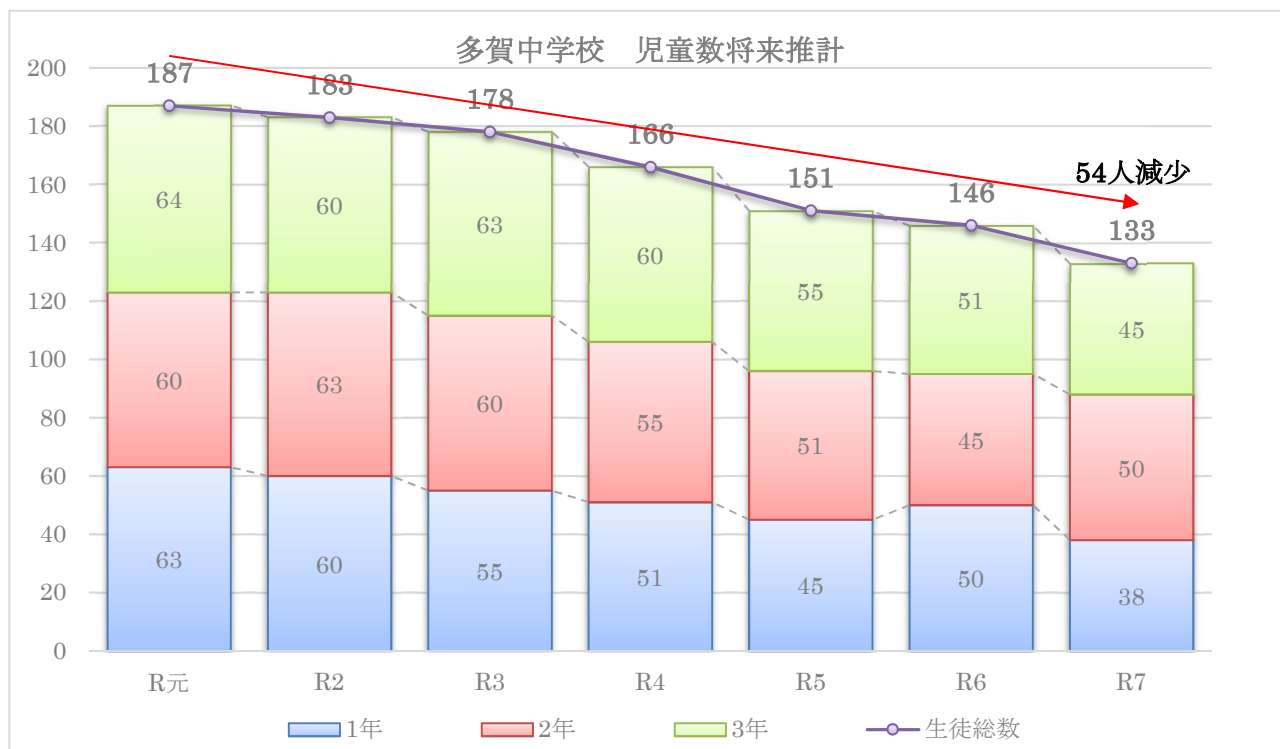
H11－H30 148 人、41.6%の減少



出所：学校基本調査

◆ 将来推計（スライド推計） ※ 推計値は、前年度入学率を乗じて算出

令和元年5月1日実績児童総数187から令和7年までの間に54人が減少する見込みである。標準学級数は、令和元年6学級から5学級に減少する。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

平成18年度に「網代中学校」との統合を経て現在に至るが、経年の傾向として生徒数は減少している。中長期的にもこの傾向は継続していく見込みではあるが、南熱海地区の基幹中学校として今後も維持していく。

なお、昭和59年に現在の校舎等が整備され、一定期間を経過したことにより平成29年度より屋上、外壁等の大規模防水工事を実施した。今後も、学校内活動に支障が生じている箇所の修繕や改修を計画的に進めていく。

また、学校生活や教育課程、生徒指導等においては、「多賀小学校」と「網代小学校」との統合を踏まえ、きめ細やかな対応等を実施していく。

## 【泉中学校】

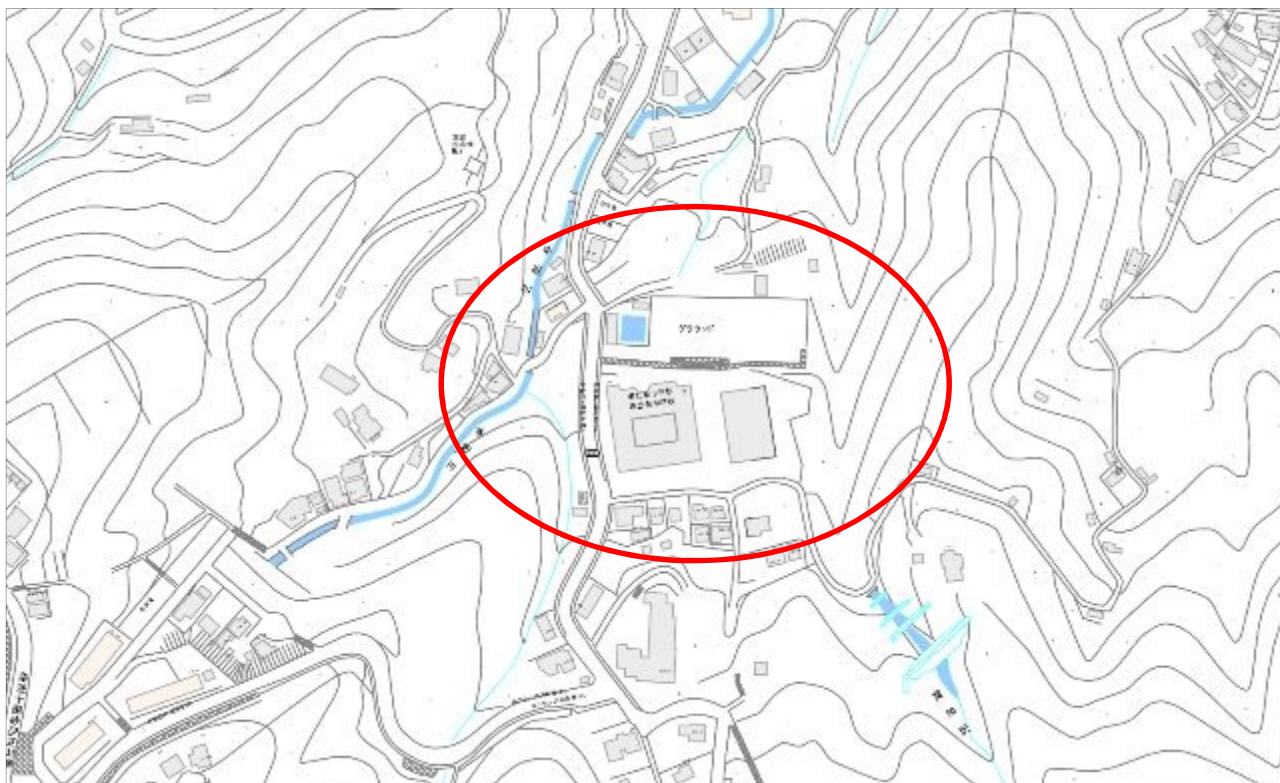
### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市泉 280 番地

② 生徒数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

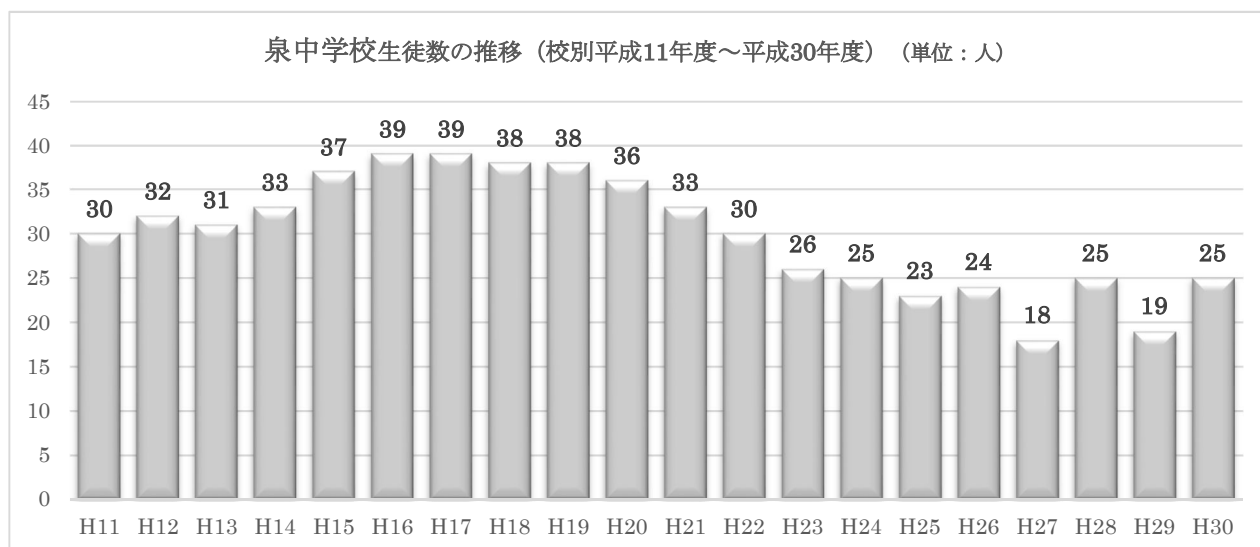
生徒数 18 人、学級数 3 学級、教職員数 11 人

③ 校地面積 12,152 m<sup>2</sup>、校舎総面積 2,293 m<sup>2</sup>、運動場面積 3,937 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

H11－H30 5 人、16.7%の減少

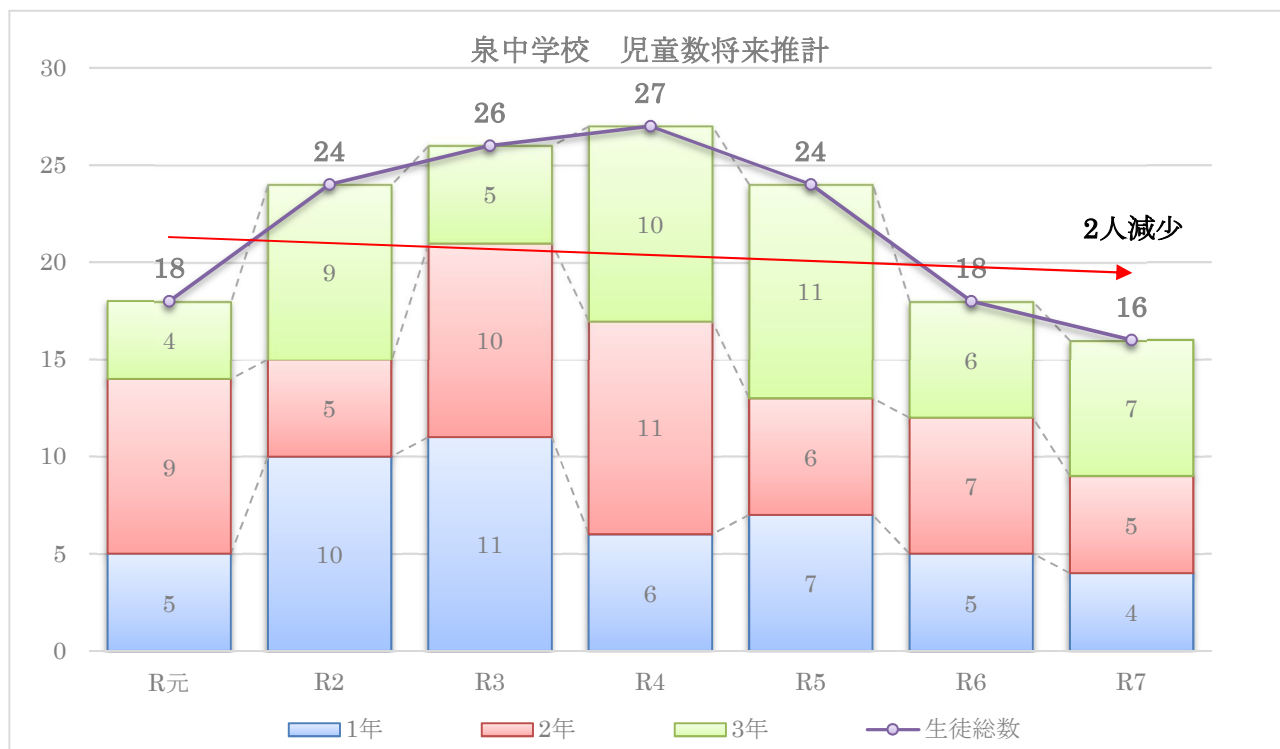


出所：学校基本調査



◆ 将来推計（スライド推計） ※校区住民記録に基づき算出

令和元年5月1日実績児童総数18から令和7年までの間に2人が減少する見込みである。標準学級数は、令和元年3学級で変化はない。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

当該校区の住民等の推移は、これまで及び今後長期的には、ほぼ横ばいで推移する見込みである。また、小学校児童数は30名程度で推移し、生徒数は、各年で増減は見られるものの、20名程度で推移する見込みである。

今後、中長期的に、児童、生徒数の急激な減少等に注視して、状況に応じた措置を検討していくとともに、泉地区が市街地から遠隔に位置し、神奈川県との県境にあることから、他校との統合については慎重に検討していく。このことを踏まえ、泉小中学校及び泉幼稚園における教育環境の充実と学校運営の魅力向上を図るため、教職員の配置と教育課程の着実な実施を前提に小中一貫した教育の実施のため「義務教育学校」への移行の可能性を検討していく。

## 【初島中学校】

### ◆ 学校の概要

① 所在地 熱海市初島 219 番地

② 児童数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

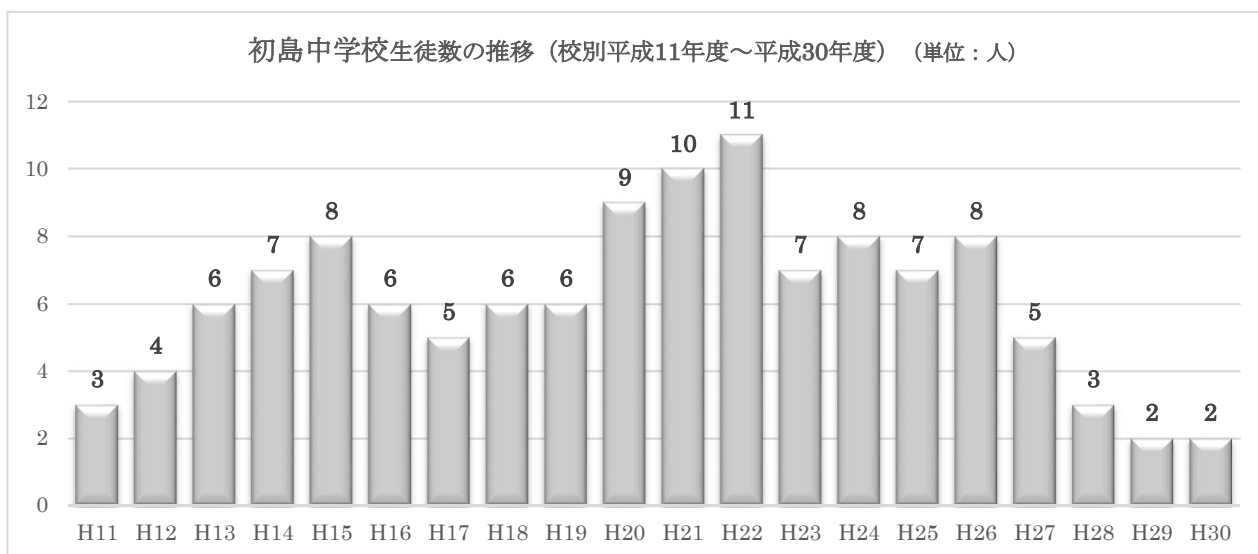
児童数 1 人、学級数 1 学級、教職員数 3 人

③ 校地面積 4,805 m<sup>2</sup>、校舎総面積 551 m<sup>2</sup>、運動場面積 924 m<sup>2</sup>



### ◆ 過去 20 年間の推移

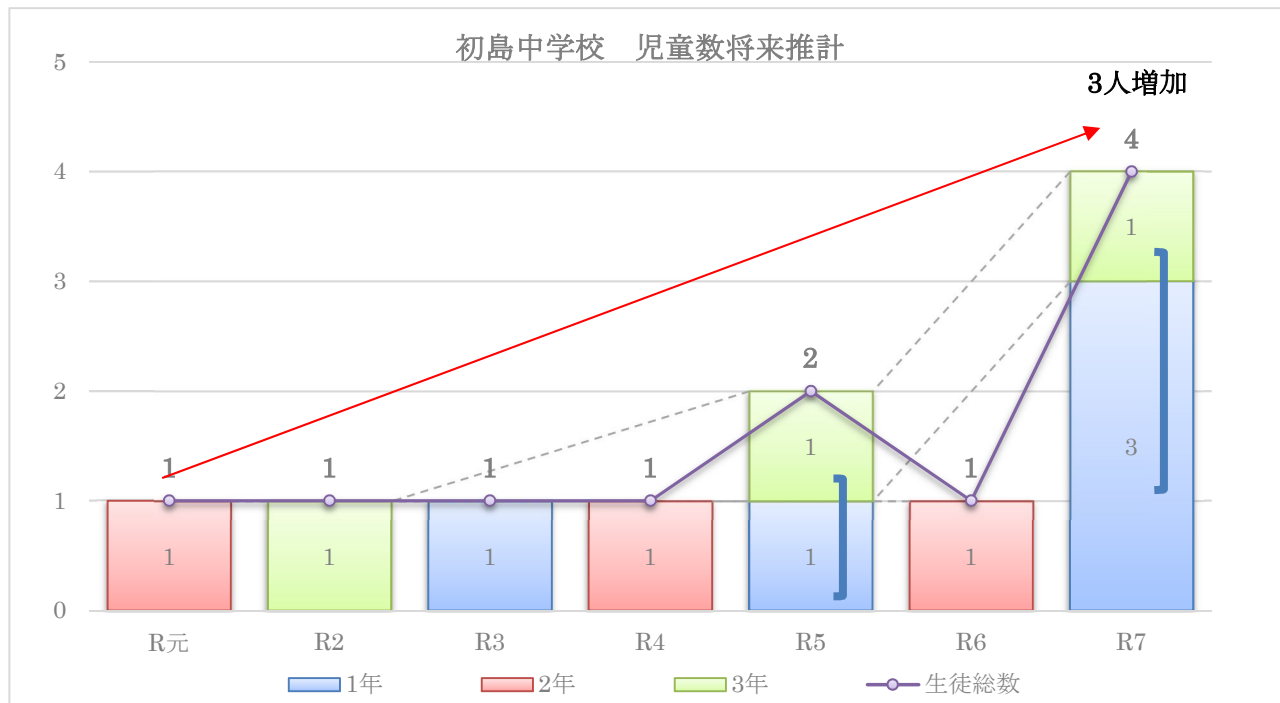
H11－H30 1 人、33.3%の減少



出所：学校基本調査

◆ 将来推計（スライド推計） ※校区住民記録に基づき算出

令和元年5月1日実績児童総数1人から令和7年までの間に3人が増加する見込みである。標準学級数は、令和元年1学級で、令和5年、7年に複式学級が生じる。



\*元年度（H31）実績、普通学級児童数

出所：学校数、児童・生徒数及び標準学級数等調

<令和2年度以降の方向性>

（方向性）

静岡県内唯一の離島に所在する学校として、児童生徒数の如何を問わず、初島小学校及び初島中学校として、維持していく。

なお、学校施設については、平成30年度に屋根等の大規模防水工事を実施しており、現状、学校内活動等に支障は生じていないが、立地上、風水害の影響を受けやすいことから、緊急応急的な修繕等を必要に応じて実施していく。

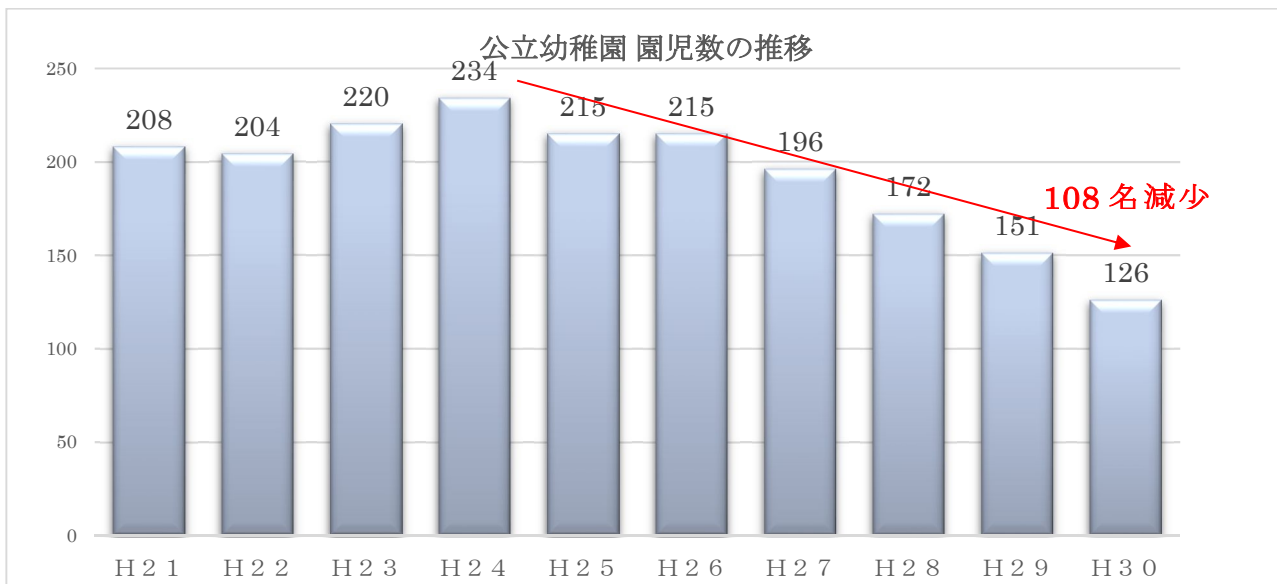
また、インターネット環境は、市街地と比べ満足な状態ではないが、試行的な遠隔教育等の実施を検討していく。

## 7. 幼稚園 園児数の推移 令和2年度以降の方向性

過去10年間の市内公立幼稚園の園児数の推移は、次のとおりである。

平成28年度以降の減少幅の増加は、出生数の減少に比例して大きくなっていく。また、近年の女性就業率の向上による保育需要の高まりに半比例して、幼稚園への入園を希望する世帯の減少もその要因として挙げられる。

今後、特に出生数の状況を踏まえた幼稚園運営の方向性について、学校施設の方向性に合わせて検討していく必要がある。



### 【多賀幼稚園】

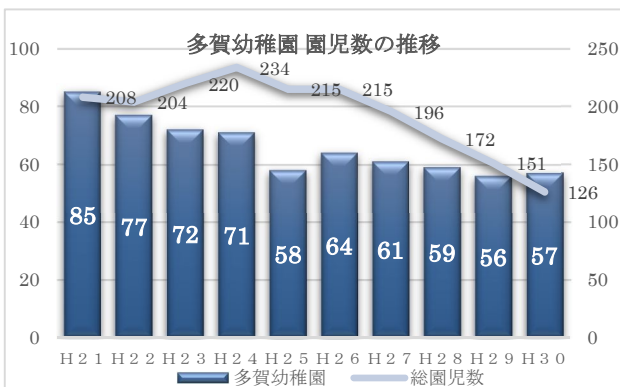
#### ◆ 幼稚園の概要

① 所在地 熱海市下多賀 918 番地の 1

② 園児数等（平成31年4月1日現在）

園児数 49人、学級数 3学級、教職員数 8人

③ 園地面積 2,323 m<sup>2</sup>、園庭面積 958 m<sup>2</sup>



## <令和2年度以降の方向性>

(方向性)

南熱海地区の就学前教育の基幹施設として維持していくとともに、施設に近接する多賀小学校との系統を意識した幼稚園と小学校の連携した教育を進めていく。また、保育需要の増加に伴う、幼保連携型認定こども園への移行について、園児数の状況等を踏まえ検討していく。

### 【緑ガ丘幼稚園】

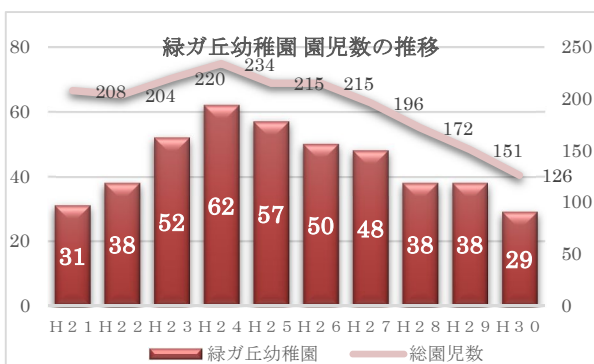
#### ◆ 幼稚園の概要

① 所在地 熱海市緑ガ丘町18番2号

② 園児数等（平成31年4月1日現在）

園児数 30人、学級数 3学級、教職員数 7人

③ 園地面積 1,900㎡、園庭面積 865㎡



## <令和2年度以降の方向性>

(方向性)

令和2年度に第二小学校内及び近接に整備された幼保連携型認定こども園に統合する。

なお、施設の跡利用については、近隣福祉施設の更新に際しての代替施設として検討する。

## 【伊豆山幼稚園】

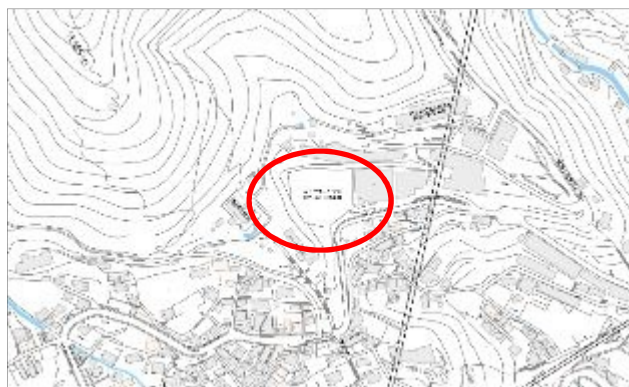
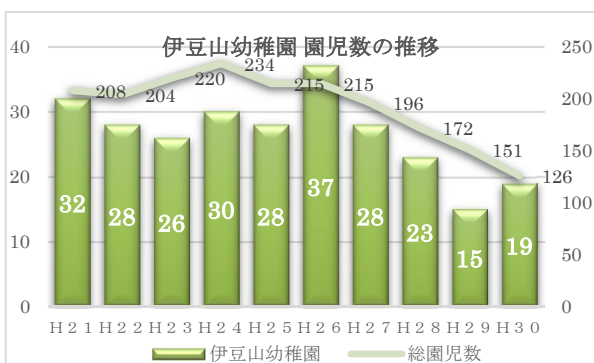
### ◆ 幼稚園の概要

① 所在地 熱海市伊豆山 711 番地

② 園児数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

園児数 16 人、学級数 3 学級、教職員数 7 人

③ 園地面積 258 m<sup>2</sup>、園庭面積 4,230 m<sup>2</sup>（伊豆山小学校運動場）



### < 令和 2 年度以降の方向性 >

（方向性）

中期的に市街地に位置する「第一小学校」と「伊豆山小学校」との統合を検討していくことと合わせて、併設する「伊豆山幼稚園」は、保育需要の高まりによる幼稚園入園需要の減少が顕著であり、小学校の統合検討とあわせて、維持継続または、休園等について検討していく。

## 【泉幼稚園】

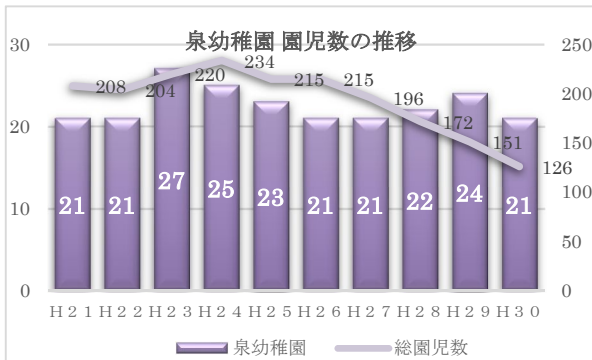
### ◆ 幼稚園の概要

① 所在地 熱海市泉 52 番地の 1

② 園児数等（平成 31 年 4 月 1 日現在）

園児数 31 人、学級数 3 学級、教職員数 6 人

③ 園地面積 1,353 m<sup>2</sup>、園庭面積 345 m<sup>2</sup>



### < 令和 2 年度以降の方向性 >

#### (方向性)

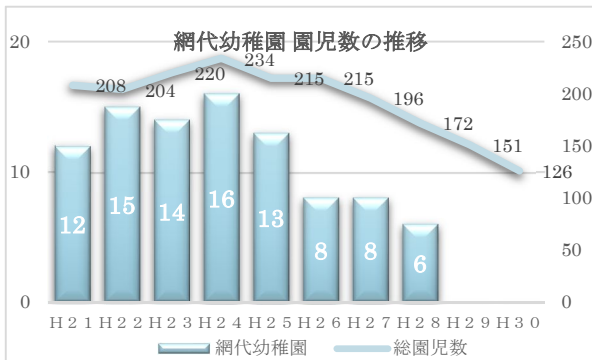
当該校区の住民等の推移は、これまで及び今後長期的には、ほぼ横ばいで推移する見込みである。あわせて、小中学校の児童生徒数についても、20～30名程度で推移すると見込まれる。

今後、中長期的に、児童数の急激な減少等に注視して、状況に応じた措置を検討していくとともに、泉地区が市街地から遠隔に位置し、神奈川県との県境にあることから、他の園との統合については慎重に検討していく。このことを踏まえ、泉小中学校及び泉幼稚園における教育環境の充実と学校運営の魅力向上を図るため、教職員の配置と教育課程の着実な実施を前提に小中一貫した教育の実施のため「義務教育学校」への移行の可能性とともにあわせて維持について検討していく。

### 【網代幼稚園】

#### ◆ 幼稚園の概要

- ① 所在地 熱海市網代 195 番地  
平成 29 年度以降休園。



### < 令和 2 年度以降の方向性 >

#### (方向性)

網代地区においては、出生数はもとより高齢化の進展による地区人口の減少が著しく、小学校の推計児童数は、令和 3 年度に 10 名程度まで減少する見込みである。また、各学年すべてにおいて複式学級となっていることや令和 2 年度の実質的な入学者が見込まれていない。

このことを踏まえ、小規模校としての利点等はあるものの、集団生活から得られる多様な価値観を育成することや一定の競争力を身に付けることなど、児童の教育環境の整備は急務となっていることを踏まえ、令和 3 年度に「多賀小学校」との統合を進める中で、あわせて閉園について並行していく。



8. 学校等施設の適正規模・適正配置計画（素案）概要表

園、学校名	方向性（本文抜粋）	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022)	5年度 (2023)	6年度 (2024)	7年度 (2025)	8年度 (2026)	9年度 (2027)	10年度 (2028)	11年度 (2029)	
第一小学校	熱海市市街地に位置する基幹小学校として維持していく。その際、令和7年度を起点として、「桃山小学校」、「伊豆山小学校」の児童数の推移を踏まえ、両校との統合を検討していく。（掲載 P11）	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	
						◆統合検討⇒ ⇒ ⇒ ⇒						
第二小学校	今後、中長期的には、認定こども園とともに小学校についても維持していくが、出生数の推移及び就学前教育の需要、小学校児童数の推移を注視していく。（掲載 P13）	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	
多賀小学校	南熱海地区における基幹校として、また、市内小学校において最大児童数を持つ小学校であり、長期的に維持していく。さらに、令和3年度には、同地区に位置する小規模校の網代小学校との統合を進める。（掲載 P15）	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	
			◆網代小学校との統合⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒									
伊豆山小学校	児童数は、近年及び中期的推計ではほぼ横ばいで推移するものの、一部の学年で複式学級となるなど、今後の児童数の推移に注視し、集団生活の中での多様な価値観の醸成など、教育環境の変化を踏まえ、中期的に市街地に位置する「第一小学校」との統合を検討していく。（掲載 P17）	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	◆統合検討（結論）⇒ ⇒						
桃山小学校	今後、校区内住民の増減動向を注視していくことと合わせて、さらに集団生活等の教育環境を整えていく観点から、市街地に位置する「第一小学校」との統合を中期的に検討していく。（掲載 P19）	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	◆統合検討（結論）⇒ ⇒						
網代小学校	集団生活から得られる多様な価値観を育成することや一定の競争力を身に付けることなど、児童の教育環境の整備は急務となっていることを踏まえ、令和3年度に「多賀小学校」との統合を進める。（掲載 P21）	継続	◆多賀小学校との統合⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒									
泉小学校	泉小中学校及び泉幼稚園における教育環境の充実と学校運営の魅力向上を図るため、教職員の配置と教育課程の着実な実施を前提に小中一貫した教育の実施のため「義務教育学校」への移行の可能性を検討していく。（掲載 P23）	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	
			◆移行可能性検討									
初島小学校	静岡県内唯一の離島に所在する学校として、児童生徒数の如何を問わず、初島小学校及び初島中学校として、維持していく。（掲載 P25）	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	

園、学校名	方向性 (本文抜粋)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022)	5年度 (2023)	6年度 (2024)	7年度 (2025)	8年度 (2026)	9年度 (2027)	10年度 (2028)	11年度 (2029)
熱海中学校	平成26年度に「小嵐中学校」との統合により、市街地の基幹中学校として位置づけている。 今後の生徒数の推移は、中長期的に見て減少の傾向を示しているものの、引き続き現状のとおり維持していく。 (掲載 P27)	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒
多賀中学校	平成18年度に「網代中学校」との統合を経て現在に至るが、経年の傾向として生徒数は減少している。中長期的にもこの傾向は継続していく見込みではあるが、南熱海地区の基幹中学校として今後も維持していく。 (掲載 P29)	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒
泉中学校	泉小中学校及び泉幼稚園における教育環境の充実と学校運営の魅力向上を図るため、教職員の配置と教育課程の着実な実施を前提に小中一貫した教育の実施のため「義務教育学校」への移行の可能性を検討していく。 (掲載 P31)	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒
			◆移行可能性検討								
初島中学校	静岡県内唯一の離島に所在する学校として、児童生徒数の如何を問わず、初島小学校及び初島中学校として、維持していく。 (掲載 P33)	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒

園、学校名	方向性	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022)	5年度 (2023)	6年度 (2024)	7年度 (2025)	8年度 (2026)	9年度 (2027)	10年度 (2028)	11年度 (2029)
多賀幼稚園	南熱海地区の就学前教育の基幹施設として維持していく。また、保育需要を踏まえ、幼保連携型認定こども園への移行について、検討していく。 (掲載 P35)	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒
			◆移行検討								
緑ガ丘幼稚園	令和2年度に第二小学校内及び近接に整備された幼保連携型認定こども園に統合する。 (掲載 P35)	◆熱海こども園に統合(閉園) ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒									
伊豆山幼稚園	小学校の統合検討とあわせて、維持継続または、休園等について検討していく。 (掲載 P36)	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	◆閉校検討(結論) ⇒ ⇒					
泉幼稚園	泉小中学校の「義務教育学校」への移行の可能性とともにあわせて維持について検討していく。 (掲載 P37)	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒	継続⇒
			◆移行可能性検討								
網代幼稚園	令和3年度に「網代小学校」と「多賀小学校」との統合を進める中で、あわせて閉園について並行していく。 (掲載 P38)	休園	◆閉園 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒								